

秘

軍用切符ニ關スル調査

下卷

3-1205

0006

軍用切符ニ關スル調査

下巻目録

諸報告書類

一 陸軍省ノ部

韓國駐節軍經理部報告

第一軍經理部報告

第二軍經理部報告

第三軍經理部報告

第四軍經理部報告

鴨綠江軍經理部報告

各師團經理部報告

遼東守備軍經理部報告

遼東兵站經理部報告

一

八

六五

一一三

一八八

一九四

一九七

二一一

三〇三

福島少將報告	三二五
清國駐屯軍司令官報告	三三〇
關東總督府經理部報告	三三五
關東州民政署報告	三三一
陸軍省經理局回答	三七八
二 外務省ノ部	
在韓國林公使報告	三七九
在仁川加藤領事報告	三八三
在牛莊瀨川領事報告	三八六
在天津伊集院總領事報告	四一九
在芝罘水野領事報告	四三四
在上海小田切總領事並松岡總領事館事務代理報告	四五三
在米國青木大使ヨリ問合並回答	四六三
三 第一銀行ノ部(同行扱中央金庫派出所ノ分共)	

京城支店報告	四六七
仁川支店報告	四九五
安州出張所報告	五二九
安東縣出張所報告	五三二
四 橫濱正金銀行ノ部(同行扱中央金庫派出所ノ分共)	
本店報告	六〇三
上海支店報告	六一四
芝罘出張所報告	六四五
天津支店報告	七〇九
牛莊支店報告	七二三
遼陽出張所報告	九〇三
奉天出張所報告	九〇四
鐵嶺出張所報告	九二六
大連出張所報告	九三〇

陸軍省ノ部

安東縣出張所報告

意見書竝復命書ノ部

高橋日本銀行副總裁意見書

在營口小澤愛治郎外五名意見書

在營口廣瀬源三郎意見書

塚田參事官滿洲視察復命書

六 軍用切符質造變造等ニ關スル報告ノ部

九七六

九七九

九八五

九九二

九九七

0009

3-1205

明治三十七年五月十四日滿鐵第三一八號ヲ以テ外務省陸軍省經理局長ヨリ廻付

四月二十三日

在仁川韓國駐劄軍經理部長報告拔萃

第一銀行ニテ五拾錢以下ノ小札ヲ發行スルニ至リタルカ事理ニ暗キ韓人ニ之ヲ使フニ至ラ
ハ小札ト手票ト同視セラレテ小札ノ價ハ今迄ノ手票ノ價ニ引付ケラル、ノ恐アリ故ニ今此
小札ノ使用ハ六ヶ敷關係アリ用心スヘキコトナリ

明治三十七年六月九日滿鐵第三七〇號ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付

五月二十四日

韓國駐劄軍經理部長報告拔萃

金錢事項

紙幣及軍用手票ノ流通圓銀交換等ノ狀況ハ前報告ト變易ナシ但シ平壤義州間ハ第一軍ニ於テ如何ニナリアルカ未タ判明ナラス此等調査ノ爲メ去ル三日部員ヲ派遣シタルモ未タ詳報ヲ得ス

韓貨ハ昨今大ニ下落シテ我カ通貨壹圓ニ對シ貳元拾五錢位トナレリ故ニ鐵道工事ノ人夫賃ノ如キハ此狀況ナレハ却テ韓貨ヲ使用スル方經濟上利益トナレリ併韓貨ノ高キ所ハ軍用手票カ或ハ第一銀行券ヲ使用ス

本月十日ニ於ケル金櫃部ニ於ケル現在高及四月中軍用手票交換高附表第二第三號ノ如シ

第二號

明治三十七年五月十日韓國駐劄兵站金櫃部軍資金現在高旬報

金種	區分	兵站金櫃部	計	向フ一箇月間所要見込額
軍用切符	符	二六八四五七〇〇〇	二六八四五七〇〇〇	
圓銀	銀	五〇、〇〇〇〇〇〇	五〇、〇〇〇〇〇〇	
日本通貨	貨	一一八七三三〇〇〇	一一八七三三〇〇〇	
合	計	四三七、一九〇〇〇〇	四三七、一九〇〇〇〇	

第三號

明治三十七年四月中圓銀交換月報

種別	部隊名	兵站金櫃部	計
軍用切符ト圓銀交換高		一九六、八九〇、〇〇〇	一九六、八九〇、〇〇〇
合	計	一九六、八九〇、〇〇〇	一九六、八九〇、〇〇〇

備考 軍用切符ト交換高ハ四月一日ヨリ同十五日迄ノ分ヲ掲ク但シ中和ハ同二十日迄仁川京城ハ四月悉皆ノ分ヲ掲ク

三



韓國駐劄軍報告抜萃 六月第二旬

金錢經理

鐵道工事設計變更ノ爲メ毎月ノ經費約參拾萬乃至四拾萬圓ノ見込トナリシニ依リ駐劄軍全部ニテ月額七拾萬ニテ足ル見込ミナリ
軍用手票ノ通用ハ依然都合宜シ圓銀交換モ餘リ多クハ無シ京城附近ヨリ元山ノ間ニ於テハ第一銀行小札ノ方有利ナルカ如キ故專ラ之ヲ使用セリ
本月十日ニ於ケル兵站金櫃部ノ通貨軍用手票圓銀ノ現在高ハ別表ノ如シ
(別表)

明治三十七年六月十日韓國駐劄兵站金櫃部軍資金現在高旬報

區分	金			計
	種	貨	軍用手票	
兵站金櫃部	通	七三、九二、二八七	二七〇、九四九、八〇〇	九六〇、〇〇〇、〇〇〇
				一、〇九八、八七一、〇八七

明治三十八年四月二十日

韓國駐劄軍經理部長遠藤慎司

金錢事項

- 一 手票及圓銀ノ戻入
前月報告ニ於テ各兵站司令部ニ在ル不用圓銀及軍用手票ヲ當金櫃部へ返納セシムルコト、セリト報告シ置キシカ本月五日手票及圓銀ハ金庫へ戻入スヘキ旨電命ニ接シタルヲ以テ直ニ其最寄ノ金庫派出所ニ戻入セリ
- 二 軍用手票ノ交換及贋造
三月下旬以來仁川金庫派出所ニ於ケル軍用手票ノ交換高ハ著シク増加シ日々平均ニ拾萬圓位アリト云フ其交換者ハ專ラ支那人ニシテ紙幣ト交換ヲ望ムモノナリ其原因ハ未タ詳カナラサルモ滿洲方面ニ於テ行使セルモノカ商買取引ノ關係ニ依リ廻リ來ルモノナラン此支那人ハ其交換シタル紙幣ヲ以テ直ニ神戸或ハ上海等ニ爲替ヲ組ムト云フ曩ニ芝罘ニ於テ拾圓贋造券ノ行使及安東縣ニ於テ壹圓券ヲ拾圓券ニ變造シタル手票ヲ行使シタルモノアルヲ發見セラレ當軍へモ其當時電報アリシカ當軍管區内

ニ於テハ軍用手票ヲ使用スルコト殆ント皆無ノ狀況ナルヲ以テ今日迄ハ爲之何等ノ影響ヲ受タルコトナシ

六

明治三十八年十月二十二日付滿鐵第五二六號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

明治三十八年九月二十日

韓國駐劄軍經理部

給養竝ニ經理報告(自八月第三旬至九月第二旬)

貨幣流通ノ狀況

韓國ニ於ケル貨幣制度ノ改正ニ伴ヒ舊白銅貨ハ漸次交換ヲ行ヒ九月二十日迄ニ第一銀行券ト交換セシ高約四百萬圓(韓貨換算約八百萬圓)ニ達シ尙ホ引續キ交換ヲ行フヲ以テ韓國内一般ノ通貨狀況ハ日ヲ逐フテ本邦ト同一ニ歸向シツ、アリ故ニ今日軍隊所在地ニ於テハ到ル處第一銀行券ノ通用ハ最も圓滿ニ行ハレアリ今後韓國内ニ於ケル通貨問題ハ最早願慮ヲ要セサルヘシ

七

明治三十七年三月三日付野戰經理長官部經理第九七號ヲ以テ外松野戰經理長官ヨリ廻付

八

二月二十五日發送ノ書面中 (在仁川武田二等主計ノ信書)

軍用切符ニ就テハ本邦人ヨリ苦情百出漸ク流通ノ方法ヲ立ツルニ至リタルニ今回經理長官ヨリ使用見合セノ電報有之却テ迷惑致居候人民ノ苦情ハ去ルコトナカラ彼等ハ皆自己ノ利益ヲ基準トシテ國家全體ノ大計ヲ考フルコトナキヲ以テ彼等ノ言ハ取ルニ足ラス當地ノ商人等ハ皆一攫千金ノ利ヲ博セントスル奸商ノミニテ特ムニ足ルモノ一人モナシ全ク無一物ニテ渡來シ何カ御用ヲ仰付ケラレ度云ヤト申出ルモノアリ以テ彼等ノ眞意ヲ知ルニ足ル去ル二十三日ヨリ軍用切符交換ヲ第一銀行ニ託シ實行シ來リタルモ交換ヲ申出テタルモノ甚タ僅少ナリ支那人ナトハ之ヲ手ニ入レハ却テ固ク握テ放タスト云フモノアリ前方ノ景況ハ不明ナルモ軍用切符百圓ヲ以テ韓貨百四拾四元ニ交換シテ使用スル者アル由韓貨ノ相場ハ大ニ騰貴シ從前貳圓以上ナリシモノハ昨今壹圓五拾錢位ニ相成居候

明治三十七年四月 日滿經第二五號ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

軍用手票流通ノ狀況 韓國出戰部隊報告

仁川

圓滿ニ流通ス殊ニ西洋人ニシテ雲州地方ニ鑛業ヲナスモノハ重ニ銀貨ヲ以テ仕拂ヲナシ來リタルニ日露開戰以來銀貨輸入ノ途絶ヘタルヲ以テ續々仁川ニ來リテ之ヲ求ムルコトナリ銀貨ノ需用頓ニ増加シタルヲ以テ軍用手票モ漸次騰貴シテ九拾參錢以上ノ相場ヲ呈スルニ至レリ

第二銀行支店ニテハ個人ノ求メニ應シ九拾錢ニテ圓銀ト引換更ニ其圓銀ヲ九拾五錢位ニテ西洋人ニ賣渡シツ、アルモノ、如シ某銀行員ニシテ兵站金櫃部ニ到リ九拾貳錢ノ割ニテ圓銀ノ引換ヲ爲サント申込ミ來リ斷然謝絶セラレタルモノアリト云フ

京城

仁川ノ如クナラサルモ差支ナク流通ス

高陽、臨津鎮

威力ヲ用ヒテ強使シタルモノニシテ最初土民間ニ流通セサリシモ其鄰地ナル京城、開城ノ間ニ於テ引換ノ途ヲ開キタル後漸次流通スルニ至レリ

九



開城、金川、南川、新店、新酒器、興水院
此地方ハ軍用切符ノ信用甚々薄ク紙幣モ軍用切符モ韓貨モ皆同價ニ歸スルニ至レリ然レトモ尙ホ民間ニ流通セス韓貨六、七拾錢ヲ以テ喜ンテ軍用切符壹圓ト交換スルモノアリシト云フ

各司令部ハ人夫賃等ヲ仕拂ヒ軍用切符ヲ強使スルモ民間ニ流通セサル爲メ郡守ハ之ヲ韓貨ニ引換ヘ本人ニ仕拂フ處多シ此間ニ於テ郡守ノ私利ヲ營ムモノアルカ如シ此ノ如キ地方ニ在リテハ紙幣ヲ使用スルヨリモ軍用切符ヲ使用スルヲ利トシ更ニ一步ヲ進メテ寧ロ韓貨ヲ使用スルヲ最モ利アリトスルモ多數ノ仕拂ニ韓貨ヲ使用スルトキハ韓貨ノ需用増加シ益、其價ヲ騰貴シ直ニ京城仁川迄モ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ軍用切符ノ價ヲ高ムルノ手段ヲ講スルヲ最上ノ策ト信シ各兵站地ニ圓銀引換ノ途ヲ開キ軍用切符ノ信用ヲ高メ又一方ニハ速ニ常價ニ復セシムル様努力スヘキ旨各兵站司令官ヘ通達シタルノミナラス第十二師團ノ通過モ全ク結了シ最早多額ノ仕拂ヲ要セサルコト、ナリタルヲ以テ漸次常態ニ復スルト同時ニ軍用手票モ相當ノ相場ニテ民間ニ流通スルニ至ルナラント思考セラル

鳳山

概ネ開城、興水院間ニ同シ

黃州、中和、平壤

流通ノ狀況詳カナラサルモ敵ニ近ク土民一般ニ軍用手票ニ對スル危惧ノ念ヲ懷キタルヲ以テ使用上一時困難シタルモノ、如シ然レトモ過般來各兵站地ニ圓銀引換ノ途ヲ開キタルト敵兵漸次退却シタルトヲ以テ漸次流通ヲ見ルニ至ラン殊ニ平壤ニ近ツクニ從ヒ土民ハ能ク銀貨ノ效力ヲ了知スルヲ以テ鳳山以南ヨリモ却テ好結果ヲ奏スルニ至ラン

沙里院、載寧、新院、海州

此地方ハ京義間ノ本道ト異ナリ交通不便人智一層蒙昧頑愚ニシテ韓貨スヲ漸ク近年之ヲ見ルニ至リタル程ナレハ紙幣及銀貨ノ加キモ全ク之ヲ知ラサルモノ多シ故ニ軍用手票ノ使用ハ最も困難ヲ極メタルカ如シ
本道上ノ各兵站司令部ハ當初仁川若クハ京城ニ於テ若干ノ韓貨ヲ交換シ來リテ之ヲ使用シタルカ故ニ人夫等モ速カニ集ムルコトヲ得タリシモ此地方ノ兵站司令官ハ始メヨリ只軍用手票ノミヲ携行シ來リタルヲ以テ人夫ノ募集ニ一大障礙ヲ見百方盡力漸ク之レヲ使用スルコト、ナレリ本道上ノ人夫實ハ此地方ニ比シ殆ント倍額ナルノミナラス亦韓貨ト邦貨ト同

價額ニ至リタルハ當初韓貨ヲ使用シタルハ其ノ原因ナラシカ軍用手票ノ爲メ人夫ヲ募集困難ナリトノ報告頻繁ナルヲ以テ各兵站地ニ圓銀交換ノ途ヲ開キタリ其後ノ景況詳カザラサルモ各兵站地ヨリ何等ノ苦情ナクシテ手票ノ請求アルヲ以テ見レハ漸次軍用切符ノ信用ヲ得テ流通ズルニ至レルナラン海州ニテハ其以前ヨリ郡守ニ於テ人民ノ請ニ應シ軍用切符ヲ韓貨ト交換スル等ノ便宜ヲ與ヘ今ハ最モ能ク流通セリ

一般ノ意見

- 一 軍用切符ハ圓以下ノモノアルヲ以テ圓銀及紙幣ヨリモ便利ナリ然レトモ韓國土民生活ノ程度ハ甚々低キヲ以テ五錢ノ手票アラハ益、便利ナルノミナラス土民間ノ流通ヲ助クルコト大ナラン
- 二 軍用ノ二字ハ土民ヲシテ不安ノ念ヲ起サシムルカ如シ故ニ軍用手票トセスシテ日本銀票トセシ方可ナリシナラン
- 三 開城鳳山間ニ於テ紙幣モ軍用切符モ韓貨モ同價ニ歸シタルハ左ノ如キ原因ニ出デタルナラン
- 一 人民ハ貨幣ノ眞價ヲ知ラス壹元モ壹圓モ音相通スルコト

- 二 紙幣ト軍用切符ト同價ニ強使スルコト、セシ結果紙幣ノ價ハ軍用切符ノ價ニ引付ケラレシト同時ニ一方ニハ事變ノ爲メ韓貨ノ需用ヲ増シ價格ヲ騰貴シタルコト(本項ニ就テハ其當時已ニ注意済)
- 三 各兵站司令部ハ人夫募集及物資ノ蒐集ニ急ニシテ價格ヲ争フノ暇ナク韓貨ト軍用切符又ハ紙幣トヲ濫用シタルコト
- 四 右ノ理由ニ依リ紙幣ト軍用切符トヲ併用スルハ不得策ナルカ如シ滿洲内地ニ進入セハ悉ク軍用切符ノミヲ使用スルコト、セハ如何
- 五 軍用切符ハ戰時ニ於テモ硬貨ト交換スルノ途アルモ紙幣ハ全ク其途ナキヲ以テ將來ハ軍用切符ハ紙幣ヨリモ土民(殊ニ清國人)ニ喜ハル、ニ至ラン

本邦通貨流通ノ狀況

- 一 仁川及京城ハ全然内地同様ニ流通ス從テ圓銀ニ對シ相當ノ價格ヲ保ツ(通貨壹圓ニ對シ至九拾參錢)
- 二 京城以北ニ進ムニ從ヒ流通漸次阻碍シテ金川以北ニテハ一時韓貨ト同價ニテモ流通困難ニ至リタルコトアリ但シ平壤ニ近クニ隨ヒ漸次亦流通ノ度ヲ増スト云フ
- 三 鳳山、海州間ノ沿道ハ土地邊僻ニシテ交通少ナク人智一般ニ頑愚ナルヲ以テ邦貨ノ流通尤モ困難ニシテ軍用手票ト毫モ擇フ處ナシ寧ロ硬貨ト容易ニ交換シ得ル軍用手票ヲ却テ便利トス
- 四 補助貨珠ニ五錢白銅貨ハ流通容易ナルモ韓貨ト同視セラレ其常價(韓貨ノ二倍以上)ヲ保ツコト難シ故ニカメテ之ヲ使用セサルヲ利トス
- 五 要スルニ紙幣及第一銀行券流通ノ程度ハ韓人間ニテハ軍用切符ニ等シキヲ以テ寧ロ口目前硬貨ト交換スルコトヲ得ルノ便アリ且圓以下ノ端錢アル軍用手票ヲ勝レリトス

明治三十七年五月四日滿經第二五號ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

自四月一日起至四月十五日

一 安州ニ於テハ兵站司令部ニ於テ貳萬圓他部隊ニテ約壹萬五六千圓ノ軍用手票ヲ使用セリト聞キ又一方ニハ土人或ハ本邦商人ニシテ不當交換ヲ行ヒ居ル者アリト聞キタルニ因リ一ハ軍用手票ノ信用ヲ博シ一ハ奸商輩ノ不當交換ヲ防遏スルノ目的ヲ以テ軍司令部該地到著ノ翌日即チ四月十日午後一時ヨリ最モ人目ニ觸レ易キ場所ニ於テ軍金櫃部ヲシテ之レカ交換ヲ實施セシム金櫃部ハ部員ヲ配置シ便宜ノ方法ヲ設ケテ交換請求者ノ取扱ヲ丁寧ニシ且ツ其請求群毎ニ通譯ヲシテ軍用手票ノ權能、使用及交換ノ手順等ニ關スル綿密ナル説明ヲ與ヘシメタルニ請求者ハ能ク其ノ要領ヲ會得シ隨テ大ニ軍用手票ノ信用ヲ知ラシムルノ實狀ヲ示セリ而シテ交換ハ午後四時ヲ以テ之レヲ閉止セルヤ交換總額ハ貳千四百九拾圓ニ達シタリ其ノ區分次ノ如シ

- 金九拾圓 拾圓手票
- 金八百貳拾五圓 五圓手票
- 金千六拾七圓 壹圓手票
- 金四百七拾圓五拾錢 五拾錢手票

金拾七圓六拾錢

貳拾錢手票

金拾九圓九拾錢

拾錢手票

交換者ハ主人ニ限ルモノトシ邦人ニ對シテハ銀行出張所ニ就キ交換スヘシト指示セリ又
土人ト雖射利的手段ヲ以テ得タル證據アル者ニ對シテハ交換ノ急要ナキモノト認定シタ
ルニ依リ此ノ交換ニ於テ其ノ理由ヲ告ケ暫ク之ヲ謝絶シタリ
前項ノ交換施設ハ軍用手票ノ運用上大ニ利益アルト認メタルニ依リ軍金櫃部長ヲシテ後
續前進スル兵站金櫃部長ニ其要領ヲ傳授スルノ處置ヲ採ラシメ尙前進路上兵站司令官ニ
モ之レニ關スル必要ノ説明ヲ與ヘ且ツ勉メテ軍用手票ノ運用ヲ謀ルヘシト注意シ置ケリ

明治三十七年四月十八日付滿鐵第二四八號ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ退付

第一軍經理部報告 三月三十一日

軍用手票ヲ諸種ノ税金ニ代納セシムルノ途ヲ開カシムルコト(前旬第五節第一參照)ニ關シ
テハ其ノ後領事ヨリ觀察使、郡守等ニ交渉シ地方一般ニ諭不セシメタレ共日尙淺キカ爲未
タ其結果ヲ收ムルニ至ラス而テ前方ヨリノ情報ニ據レハ軍用手票ノ勢力ハ甚々微弱ニシテ
急速ノ調達ニ在テハ到底其使用ニ適セサルモノ、如シ軍用手票交換ノ目的ヲ以テ安州ニ銀
行員ヲ進ムヘキコトヲ平壤銀行出張所長弓場重榮ニ商議シタルニ同所長ヨリ仁川支店ニ請
求シタル結果遂ニ一名ノ銀行員ヲ分派スルコト、ナレリ

第一軍兵站經理部報告

鎮南浦及平壤ハ金融緩漫ナリト雖軍用切符ハ殆ント信用地ニ落チ郡守ニ命シ商估ニ訓諭シ極力通用ヲ勤ムト雖順安以北ノ如キハ最モ受領ヲ嫌ヒ人夫ノ如キ軍用切符ニテ仕拂ヲ爲ストキハ翌日ヨリ應スルモノナキ狀況ナリ肅川ノ如キハ圓銀壹圓ニ對シ軍用切符貳圓ト云フニ至ル之一ハ圓銀トノ引換ヲ開始セサルニ依ルナラン
依テ現今信用ヲ回復スルノ一手段トシテ各兵站司令部ニ於テ一日軍用切符ヲ交付シ其幾分ヲ次日以後ニ於テ交換スルノ方法ヲ取り居レリ
圓銀ハ總テ受領ヲ望ミ平壤ノ如キ現今圓銀ニ對シ韓貨壹元七八拾角ノ相場ヲ保チ賣買シ居ルモノノ如シ

四月十九日

第一軍

軍用手票使用ニ關スル第二回報告及意見

軍用手票ノ流通ニ關シテハ去三月二十八日江西ニ於テ其通過ノ地方ニ於ケル使用困難ノ狀況ヲ報告セリ爾後軍隊ノ漸次韓國內地ニ進入シ交換ノ便アル經濟市場ヲ去ルコト愈々遠キニ從ヒ其使用上益々不便ヲ感シタリ
立石場(安州)ヲ距ル西南約六里ニ在ル有各部落(地方)ノ土民ニアリテハ日常專ラ韓貨ヲ使用シ貨幣ニ對スルノ知識淺薄ニシテ未タ紙幣ノ何物タルヲ辨ヘサルモノ多シ況ンヤ兌換紙幣ト軍用手票トノ區別ニ於テオヤ彼等ノ眼中ニハ共ニ是レ一片ノ紙票ニシテ金ト銀トノ比價ノ如キ之ガ説明ヲ務ムルモ尙且ツ會得セシムルコト能ハス共ニ其受領ヲ甘諾セス殊ニ軍用手票ニ至リテハ殆ント其受領ヲ拒絕セリ之ヲ強行スレハ忽チ物資及勞力ノ供給ヲ斷ツニ至ル
圓銀及補助銀貨ハ之ヲ愛好スルコト甚タシク圓銀一枚ハ裕ニ紙幣ノ壹圓貳拾錢或ハ其以上ニモ通用シ其間ニ著シキ交換價格ノ差違アルヲ見ルナリ



如斯手票ノ使用困難且ツ不利ニシテ軍資金ノ運用ヲ缺キ手票ノ妙用ヲ誤ルハ其基ク所主トシテ交換機關ノ不備ニシテ手票ノ信用ヲ確立スル能ハサルニアリ是ヲ以テ師團ハ四月七日ヨリ立石場ニ於テ軍用手票ノ圓銀トノ交換ヲ開始セリ爾後同地出發迄三日間ニ於ケル交換高左ノ如シ

四月七日	千五百貳拾貳圓	此口數六
同八日	四百拾七圓	同 六
同九日	四千六百九圓	同 一三
計	六千五百四拾八圓	同 二五

右二十五日ノ内其額ノ小ナルモノハ貳參圓ヨリ大ナルモノハ貳千圓已上ニ上リシモノアリ之ヲ平均スルニ一口貳百六拾壹圓餘ニ當レリ而シテ是等交換軍用手票ノ拂渡先キヲ尋ヌルニ概ネ糧餉部又ハ其他ノ部隊ヨリ糧秣薪炭等物資ノ購買代又ハ宿舍料勞役賃等トシテ拂出シタルモノニシテ其交換ニ來ルモノ殆ジト皆直接ノ受領者ニアラサルハナク右ニ手票ヲ受クレハ忽チニ左ニ圓銀ト交換スル有様ニシテ未タ轉々流通シテ更ニ第三者ニ渡リ土民間ニ使用セラレタルモノアルヲ見ス唯時々狡猾ノ輩アリテ手票ノ眞價ヲ知ラサル土民ノ愚ニ乘

シ手票ヲ安價ニ買集シ交換ノ間ニ介立シテ奇利ヲ貪ルニハアラサルカヲ疑ハシムルモノアルノミ

初メ交換ヲ開始スルヤ土民ハ金券ト銀券トノ區別ヲ知ラサルカ故ニ拾圓兌換券三十枚ヲ携へ來リ一枚圓銀一個ノ割合ヲ以テ交換ヲ請求シタルモノアリ故ニ其兌換券ノ表面ニ印刻シアル「此券引換ニ金貨拾圓相渡可申候也」(裏面ニモ英文ニテ同様ノ記載アリ)ノ條文ヲ指示シ是レ金貨ト兌換セラルヘキモノニシテ圓銀ト交換スヘキモノニアラス平壤其他ノ日本貨流通市場ニ至リ日本通貨ト交換スレハ圓銀ハ金貨八拾九錢ニ相當スルカ故ニ金券壹圓ニ對シテハ圓銀一個ハ外ニ拾壹錢ノ割合ヲ以テ交換シ得ヘク其邊ニ利益アルコトヲ懇ニ語ヲ盡シテ説得セリ土民ノ中ニハ然ラハ何ヲ以テ當部ニ於テ銀圓ト金圓トノ此利益アル交換ヲ肯シセサルカラ反問スルモノアリ又壹圓兌換券ヲ持參シ圓銀トノ交換ヲ要請シテ止マラサルモノアリ蓋シ壹圓兌換券ノ表面ニハ「此券引換ニ銀貨壹圓相渡可申候也」トノ條文印刷シアルヲ以テナリ



ヘキモノナルコトヲ土民ニ實證スルノ效アルヘキヲ信ス只憾ラクハ金櫃部ノ位置タル師團ノ行動ト共ニ移動常ナク土民ヲシテ其交換ニ對スル不安ノ念ヲ全ク除去スルコト能ハザルト共ニ交換基金タル圓銀ノ携行ニモ多大ノ費用ヲ要シ且ツ金櫃部ノ名稱タル未タ土民ノ耳ニ新タニシテ寧ロ彼是ノ耳ニ慣レ能ク其存在トフ知ラザルモノナキ兵站司令部ノ如キ不動ノ性質ヲ備フルモノヲシテ交換ノ機關ニ當ラシムルニ於テハ彼等ヲシテ急速ニ其交換ヲ求メントスルノ念慮ヲ和ラケ隨テ交換基金ノ準備少ナクシテ漸次軍用手票ノ信用ヲ確立シ其流通ヲ普及セシムルニ於テ更ニ其效ノ大ナルヘキヲ信ス

之ヲ要スルニ戰地ニ消費スルモノ目下日本通貨、圓銀、軍用手票ノ三種ニシテ日本通貨ノ中ニ於テモ紙幣ト補助貨トハ其購買力ニ相違アリ立石場地方ニ於テハ其購買力ハ圓銀第一ニ居リ補助銀銅貨之ニ次キ而シテ紙幣ト手票トハ殆ント徑庭ナキモノ、如シ今後交換ノ方法宜シキヲ得ルニ至ラハ却ツテ軍用手票ヲ觀定スルモノ多キニ至ルヘシ

將來ニ對スル意見

今後手票ノ信用ヲ増大ナラシメントスルニハ第一銀行及兵站金櫃部ニ於テ交換スルノ外各地兵站司令部ヲシテ交換セシムルニ於テハ一般ニ手票ヲ信用シ遂ニハ土人相互間ニ於テ流

通シ圓銀ヨリ寧ロ手票ヲ愛スルノ感念ヲ起サシムルニ至ルヘシト信ス

右及報告候也

軍用手票ハ各兵站司令部ニ於テ多少交換ヲナスト平壤及安州ニ於テ第一銀行ノ交換ヲナスト軍金櫃部ニ於テ交換セントニ依リ大ニ信用ヲ回復セシモノ、如シ

殊ニ平壤ノ如キ本旬間ニ約六萬圓ヲ仕拂ヒシタルニ受領ヲ拒ミタルモノナキニ至レリ

雲山銀鑛ノ米國人其工夫賃ヲ仕拂フニ從來銀貨ヲ以テナシタルモ其運搬及買入ノ困難ナルト價格ノ差ヲ生スルトニヨリ軍用手票ヲ以テ之カ仕拂ヲナストキハ比較的銀貨ヨリ買收シ易ク且ツ運搬便ナルトニ依リ追々買入レ居ル等ニテ平壤ノ如キ頗ル流通圓滿ナリ

圓銀ノ好望ナルコトハ前旬ニ異ナルコトナシ

爲替送金ノ狀況

本旬迄ニ受領セシ金高ハ壹萬參千八百七拾九圓七拾錢八厘ニシテ日ヲ追ヒ増加ノ傾アリ



自四月十六日 第一軍報告
至同二十五日

圓銀ノ勢力ハ北部ニ入ルニ隨ヒ益々大ナルヲ認ム然レトモ軍ハ圓銀ノ仕拂ヲ避ケ爲シ得ル
限リ軍用手票ヲ運用セシコトヲ期ス而シテ前來屢々報告セシ如ク手票運用行動ノ連絡ニ至
リテハ高等經理機關多クハ遠離セル爲歩調ノ齊一ヲ缺ケル點アルヲ免レサリシカ開進地ニ
在リテハ連絡ヲ保持スルコト難カラスト認メタルニ因リ各師團經理部長ト協議シ今後一層
之カ運用ニ努ムルコトトシ目下其ノ方策ノ實行中ニ在ルヲ以テ詳細ハ後報ヲ待テ之ヲ盡サ
シ

二十四

明治三十七年四月三十日於車輦館第一軍兵站經理部報告中拔萃

金錢事項

軍用手票紙幣其他流通ノ狀況ハ前旬報告セシ如クナリ軍用手票流通ニ便セン爲三十日當
金櫃部ニ於テ豫告ノ上圓銀トノ交換ヲ實行セリ其額僅ニ千貳百六拾五圓ナリシ
爲替送金ノ狀況
本旬迄ニ受領セン總金額ハ五萬參千七百五圓餘ニシテ前旬ニ比シ著シク増加セリ尙漸次
増加ノ模様ナリ

二十五

電報 六月四日午後九時二十五分著

經理長官

安東縣 第一軍 鶴田

「メキシコ」銀ハ其後二箱検査セシニ壹圓ト七圓トノ贋造ヲ發見セリ

二十六

明治三十七年五月十五日鳳凰城ニ於テ第一軍經理部長第一軍第九回經理報告拔萃

第二節 金錢事項

一 鳳凰城附近ニ於ケル軍用手票ノ通用ハ前回報告セシ安東縣附近ノ狀況ト同シク良好ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ手票ニ對スル清國人ノ信用上ニ最早疑惑ヲ存スルノ點ナシト思量ス鳳凰城到著以來試ニ二回ノ交換ヲ施行セシニ第一回ニ八千九百餘圓第二回ニハ參千餘圓ノ交換アリタリ此ノ交換高ハ全軍ノ支出高ニ比スレハ僅ニ其ノ一小部分ニ過キサルヘシト測算セラル此好況ノ永續ハ頗ル希望スル所ナレトモ尙進ミテ手票ノ勢力ヲ發揚セシメシニハ引續キ隔日又ハ三日ニ一回位ノ交換ヲ爲スヲ得策トスルヲ以テ隨テ之ニ對スル交換資金ヲ要スルコト勿論トス

圓銀及軍用手票計理手續ニ關スル陸達第九十號竝ニ野戰郵便局ニ於ケル圓銀及軍用手票價受入ニ關スル滿發第一〇七三號ノ告達本日到着セリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ軍用手票ハ循環移動ヲ爲シ隨テ交換資金ノ準備及手票ノ補充ヲ要セサルカ如キ皮相觀ヲ爲スモ細ニ之ヲ分別スレハ次ノ如キ成績ヲ呈スヘシト思量セラル

二十七

一例

内 譯	行 使 總 高	軍 用 手 票	同 收 高		不 同 收 高
			高	低	
本 邦 人	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	〇	〇
清 國 人	九〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	〇	三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇,〇〇〇

此ノ成績ヲ以テ觀レハ循環移動スルモノハ本邦人拂ノ全部ト清國人拂ノ三分ノ一トニ過キス故ニ不同收高即チ清國人拂ノ三分ノ二額ニ對スル手票ト其三分ノ一額ニ對スル交換資金トニ就テハ共ニ補充ヲ要スル理トナル尙實施後ノ成績ヲ確メタル上ニアラサレハ一定ノ標準ヲ呈シ難シト雖モ將來圓銀及手票ノ補充ニ就テハ特ニ其ノ按排アラシコトヲ望ム

軍用手票中ニ於テモ壹圓以上ノ手票ハ流通頗ル可良ニシテ五拾錢以下ノモノハ稍之ニ劣ルン感アリ即チ小額ノ手票ヲ以テ壹圓又ハ五圓ノモノトノ交換ヲ請求スル者少カラサルニ由テ觀ルモ其ノ然ルヲ推知スルニ足ラン

紙幣ハ官憲直接ノ仕拂ニ使用セサルヲ以テ全般ニ對スル流通力ノ良否ヲ確認スルニ由

ナシト雖モ一部分ノ通用ニ對シ觀察スレハ流通力意外ニ微弱ナルカ如シ是他ナシ紙幣ハ手票ノ如ク圓銀ト交換セラル、ノ便ナク又商業取引殆ント杜絶ノ今日他ニ使用スルノ途ナキニ因ルニ外ナラス是等ハ軍人軍屬ノ自己用辨ニ多少ノ不利ヲ與フルコトナシトセス故ニ之ニ就テハ尙實際ノ調査ヲ遂ケタル上應當ノ方策ヲ講スヘキ意見ナリ

補助貨中五拾錢銀貨ハ流通良好ナレトモ貳拾錢以下ノモノハ之ニ比シ流通力稍劣レリ是他ナシ清國人ノ利ニ敏キ純分量目ノ關係上貳拾錢ヨリハ五拾錢ヨリハ壹圓ト云フカ如ク額ノ大ナルモノ程實質上ノ價值大ナリト打算スルニ由ルナリ

三 野戰郵便局ヨリ受入ル、振替金ハ昨今毎日千圓以上ノ收受アリ尙漸次増加ノ狀勢アルヲ認ム乃チ今後ハ通貨ノ補充追送ヲ仰クノ必要ナシト思量スルニ因リ更ニ請求セサル限リハ特送ヲ見合ハスルコト、セブレタシ

他ノ金櫃部ニ於テモ今後若干月間ノ支持ニ足ルヘキ通貨ヲ有ス故ニ是等ニ對シテモ亦請求ヲ待テ追送セラレ然ルヘシト思量ス殊ニ兵站ニ在テハ振替金ノ收受當金櫃部ヨリモ大ナラント推考セラル而シテ當金櫃部昨今ノ狀況ニテハ師團ニ對シ多少ノ移算ヲ爲シ得ルニ至ルヘシト思量セラル今後金錢ハ統一補充ノ方法ヲ取ルヲ便トスルヤニモ考



ヘラル、ニ由リ尙研究ノ上再報ヲ呈セン
 四 参考ノ爲次ニ露軍ノ安東縣ニ於テ行使セル貨幣ノ概況ヲ記セン但シ此ノ概況ハ軍金櫃部ヲシテ該地方官衙及著名ナル市人等ニ就テ實査セシメタルモノナリトス
 イ 露軍ノ安東縣ニ於テ使用シタル貨幣總額ハ約五萬圓ナルカ内約八千圓ハ小銀貨、八拾圓ハ金貨ニシテ其餘ハ悉ク「ルーブル」金價紙幣ナリト云フ
 ロ 露軍ハ一切支出貨幣ノ引換ヲ爲サ、リシモ行使上更ニ支障ヲ見サリシモノ、如シ是他ナシ安東縣附近ノ商人ハ山東地方ヨリ來レル者多ク隨テ商取引モ專ラ此ノ地方ニ向テ行ハレ芝罘ノ露國銀行其ノ間ニ立チテ取引ノ媒介ヲ爲シ在ルニ由ルモノト窺知スルコトヲ得
 ハ 清國人ノ芝罘露國銀行ニ就キ引換ヲ爲セル貨幣ノ總額ハ約四拾萬圓ニシテ其ノ換算率ハ「ルーブル」紙幣百圓ニ付清銀八拾五兩乃至七拾七兩ナリト云フ而シテ此ノ交換請求者ノ多クハ九連城、安東縣及大孤山方面ヨリ來レル者ナルヘシト聞エタリ

來電寫

六月二日鳳凰城ヨリ

外松 經理 長官

青 柳

軍用切符流通ノ勢力通貨ヲ凌クニ至レル結果各人自己ノ用便ニモ切符ヲ使用スル方便ナリ故ニ俸給給料トシテ受ケタル通貨ノ交換ヲ乞フモノアル時ハ換算ノ上切符ヲ交付スルトニシタシ至急何分ノ命待ツ



明治三十七年五月二十日青柳第一軍經理部長報告書拔萃

金錢事項

前旬報告シタル如ク手票紙幣共流通大ニ圓滑ナリ當部ハ尙之カ流通ニ便セシカ爲メ十三十八兩日金櫃部ニ於テ手票ノ引換ヲ行ヘリ十三日引換請求人員四十三人金額壹萬六千八百拾參圓、千八百七拾六人此金額壹萬八千七百參拾五圓ニシテ次回ハ來ル二十三日一人宛交換高百圓ヲ極度トシテ引換ヲ行フコトヲ公示セリ蓋シ無制限ニ之ヲ引換フトキハ少時間ニ多數金高ノ交換ヲ爲サ、ルヘカヲサルニ依リ多數希望者ニ満足ヲ與フルコト能ハサレハナリ

爲換送金ノ狀況

本旬間ニ於ケル振替送金ハ壹萬八千四百七拾五圓七拾八錢壹厘餘ニシテ振替送金開始以來總計八萬參千七百四拾九圓八拾九錢七厘ナリ

明治三十七年六月十三日付滿鐵第三七七號ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ逕付

五月二十五日

第一軍經理部長報告拔萃

一金錢事項

野戰郵便局振替送金ハ目下軍金櫃部(鳳凰城ニ於テ)第十二師團金櫃部(康家堡子ニ於テ)及軍兵站金櫃部(安東縣ニ於テ)ニ之ヲ收受シ居レルカ本月十日ヨリ二十日ニ至ル十日間ニ於テ第十野戰郵便局(鳳凰城ニ在リ)ヨリ軍金櫃部ノ受入レタル振替送金ノ成績次ノ如シ

受入最高金額	貳千五百壹圓六錢
同 最低金額	七百拾八圓九拾六錢
受入合計金額	九千貳百八拾參圓九拾四錢七厘
一日平均金額	九百貳拾八圓參拾九錢餘

爲替取組ノ最モ多キハ酒保商人ニシテ給料全部ヲ受クル雇員傭人之ニ亞キ其ノ他ノ軍人軍屬ハ割合ニ僅少ナルカ如シ

軍用手票ノ交換ハ其ノ後二十日マテニ二回之ヲ行ヒタルカ其ノ交換金額初回ハ千九百圓

次回ハ貳千九百六拾九圓ヲ算セリ

三十四

明治三十七年六月七日付滿鐵發第三六四號ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ迴付ノ内

明治三十七年五月五日於安東縣

第一軍經理部長青柳忠次報告中抜萃

金錢事項

鴨綠江以南ニ於ケル軍用手票ノ運用方策ハ爾後多少奏效シタリシモ未タ確實ナル結果ヲ見スシテ軍ハ遂ニ鴨綠江ヲ渡リテ民情異ナル清國ニ入レリ韓國ニ散使セラレタル手票ノ處置ハ該國駐屯軍及銀行ノ施爲ニ歸スルコト勿論ナルヘケレトモ目下江ヲ渡リテ交換ヲ請求シ來ル人民日ニ多キヲ加ヘツ、アリ是等ハ強チ之ヲ拒絕スルニ忍ヒスト雖トモ盡ク之ニ應スルトセハ日モ尙足ラサルヲ以テ韓國内地ニ於ケル將來ノ狀情ヲ諭告シ勉メテ交換ヲ見合ハスルノ手段ヲ取り居レリ之ニ反シ安東縣及九連城以北ノ清國人ハ軍用手票ニ對スル信用稍可良ニシテ如何ナル用途ニ於テモ歡情ノ餘熱ニ出ツルニアラサルカ又軍用手票ニ對スル一般解釋ノ良好ニ過キタルノ致ス所ナラサルカハ亦未タ俄ニ判定スヘカヲサルニ因リ現今種々ノ方面ヨリ之カ調査ヲ勉メ居レリ故ニ其詳細ハ後日更ニ報告ヲ呈セ

三十五

軍資金護送ノ吉澤主計一行ハ二十九日ニ於テ昌光洞ニ到着セリ之ニ對シ本職ハ爲シ得ル

限リノ便宜ト保護トヲ與ヘ翌三十日同地ニ於テ軍資金ノ分配ヲ爲サシメタリ而シテ近衛
師團經理部ノ受領ヲ拒絶シタル紙幣ハ御指揮ニ從テ之ヲ兵站ニ引渡シ龍岩浦碇泊場司令
部渡ノ現金ハ便宜上安東縣ニ護送スルコト、ナリ昨四日到著セリ此ノ一行ハ本日中午現
金ノ引渡ヲ終リ明六日出發歸朝ノ途ニ上ル筈ナリ
補充ヲ受ケタル軍資金ハ其ノ種類偏倚シ聊カ配合ノ按排ヲ失シタルカノ嫌ナキ能ハサル
様思量セラル今回ハ各金櫃部協議ノ上現場ニ於テ適宜移算受授ヲ爲シ以テ其ノ盈虧ヲ融
和セリ今後補充追送ノ際ハ此ノ點ニ一段ノ御注意アラシムコトヲ請フ

明治三十七年七月二十一日付滿鐵第四五七號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

第一軍第十二回經理報告 六月上旬於安東縣

一 金錢事項

當金櫃部ニ於テ時々軍用手票ノ交換ヲ實行スルハ該票ノ流通上大ニ效果アルカ如クナ
ルモ日々流通セル夥多ノ手票ヲハ到底全部交換スルノ不可能ナルヲ以テ當地公議會所
(商業會議ノ如キモノ)ヨリ同所カ指定セル最急ニ交換ヲ要スル貧民等ノ分ヲ限リ期日
毎ニ交換セラレンコトノ申出アリタルヲ以テ當部ハ之カ要求ヲ入レ同會所ノ指定セル
分ニ限リ交換スルコト、ナシタリ

二 爲替送金ノ狀況

本旬間ニ於ケル振替送金ハ貳萬貳千七百七圓八拾九錢七厘ニシテ開始以來總計金拾貳
萬九千參百壹圓六拾參錢ナリ

0028

明治三十七年六月二十日於安東縣

第一軍兵站經理部

一金錢事項

一 軍用手票交換ノ狀況

軍用手票ト圓銀トノ交換ハ苦力其他小商業者ノ便ヲ圖リ當兵站金櫃部ニ於テハ四日
目毎ニ一名一回小額貳拾圓以内ヲ限リ三百五十人ヲ度トシ交換ヲ行ヒ其他ノ者ニ對
シテハ一名貳千圓以内トシ十日間ニ十人ヲ限リ交換ヲ行フヲ以テ今日ニ至ル迄流通
上大ニ土民ノ信用ヲ得到ル所通用頗ル圓滑ナリ本旬間ニ於ケル土民トノ交換高金四
萬八百參拾六圓ニシテ交換人員六百五十八人ナリ

二 軍用手票流通ノ狀況

軍用手票ノ流通ハ前ニ言ヘル如ク頻繁ニ交換ヲ行フヲ以テ非常ニ好況ヲ呈シ我軍隊
ノ屯在シアル所ハ土民間ノ百貨賣買ハ勿論清國兩替店ニ於ケル交換使用ヲ爲ス等大
ニ清民ノ信用ヲ博シ流通頻繁ナリ故ニ將來絕對的ニ圓銀トノ交換ヲ絶ツ能ハサルモ
交換度數ヲ減スルモ民間流通上ニ於テハサマテ影響ヲ蒙ラサランコトヲ信ス

一爲換送金ノ狀況

本旬間ニ於ケル振換送金ハ壹萬八千六百貳拾壹圓ニシテ開始以來總計金拾四萬七千九
百貳拾貳圓六拾參錢ナリ

明治三十七年六月二十日 第一軍兵站經理部

明治三十七年七月十一日於草河口

第一軍經理部

一 金錢事項

軍用手票ノ安東縣ニ於テ頗ル圓滑ニ流通セラレタルハ前回屢々報告セシ如クナルモ當
地方ニ於テモ亦該手票ノ流通頻繁ニ行ハレ聊ノ支障ナキカ如シ本旬二十九日當金櫃部
ニ於テ無制限ニ手票ノ引換ヲナセシニ其交換高ハ壹萬貳千七百四拾九圓請求人員二百
十四名ナリシ

二 爲替送金ノ狀況

本旬間ニ於ケル振換送金ハ貳萬四百九拾八圓拾壹錢六厘ニシテ開始以來總計金拾六萬
八千四百貳拾圓七拾四錢六厘ナリ

明治三十七年七月十五日於草河口

第一軍經理部

六月二十三日第一軍金櫃部へ軍用手票貳萬圓近衛師團金櫃部へ同參萬圓七月三日第一軍兵
站金櫃部へ紙幣四拾萬圓軍用手票壹萬貳千六百圓同月五日ニ賽馬集兵站司令部へ紙幣五萬
圓軍用手票五萬圓ヲ何レモ移算渡シタリ
軍用手票ハ到ル處流通圓滑ニシテ一般ノ仕拂ハ殆ジト手票ノミヲ使用セリ之レ韓國内ニ比
シ仕拂大ニ利便トスル所ナリ

圓銀ノ交換ハ滯在中約十日毎ニ之ヲ行フヲ利トセリ
但シ基銀ヲ顧慮シ幾分ツ、引換ヲナス

明治三十七年七月五日於草河口

第一軍經理部

一 軍金櫃部六月二十一日ヨリ二十四日ニ至ル振替送金受入ノ狀況次ノ如シ

一日受入最高金額 六千九百七拾貳圓貳拾錢

同 最低金額 貳千七百八拾四圓參錢

受入總金額 壹萬七千貳百七拾六圓八錢

二 六月二十二日鳳凰城ニ於テ軍用手票ヲ交換ヲ施行セルカ其ノ交換總金額貳萬五千四拾七圓ヲ算セリ

三 各師團ノ前進沿道地方ハ軍用手票ノ通用甚々圓滿ナリ而シテ今後ハ止ムヲ得ザル場合ニアラサレハ其ノ交換ヲ施行セサル意見ナリ何トナレハ既ニ述ヘタル兵站輸送力ノ實況ニテハ交換基金ノ前送頗ル困難ナルノミナラズ從來ノ實驗ニ據レハ屢々交換ヲ爲ストキハ却テ軍用手票ニ對スル安堵心ヲ弱カラシムルノ傾向アルヲ以テナリ

明治三十七年七月二十日於鳳凰城

第一軍兵站經理部

一 金錢事項

軍用手票ノ流通頗ル圓滑ナルハ毎旬繰返シ報告シタル如クナルモ今ヤ何レニアリテモ使用自由ニシテ毫末ノ支障ナキハ各部隊ヨリノ報告ニ徴シテ明ナリトス畢竟我軍隊ヲ信スルノ致ス處ナリト雖モ亦當金櫃部及各兵站部ニ於テモ豫メ交換基金ヲ準備シ必要ニ應シテ時々手票ノ交換ヲ實施スルノ結果ニ外ナラサルナリ

二 爲替送金ノ狀況

本旬ニ於ケル振換送金ハ四四〇六五八二五ニシテ開始以來貳拾四萬九千五百九拾壹圓七錢七厘ナリ

明治三十七年八月十三日於金家堡子

第一軍經理部

金錢事項

一 本句中軍用手票ノ交換ヲ實行シタルハ三回ニシテ其請求人員及金高左ノ如シ

七月二十四日	交換高	五萬壹千圓	人員	六十六名
同二十八日	同	五萬七千圓	同	六十六名
同三十日	同	五萬圓	同	五十三名

七月中國銀ノ使用高ハ貳拾四萬七千貳圓ニシテ右軍用手票ノ交換ニ使用シタル外直接支拂タルコトナシ

二 爲換送金ノ狀況

本句ニ於ケル振替送金ハ參萬參千參拾七圓四拾錢貳厘ニシテ開始以來貳拾八萬貳千九百貳拾八圓四拾七錢九厘ナリ

明治三十七年八月二十三日於金家堡子

第一軍經理部

金錢事項

軍用手票ノ流通圓滑ナルハ是迄繰返シ報告シタル通ナルカ蒙陽邊門兵站司令部ノ如キハ本句手票缺乏ノ爲メ止ムヲ得ス通貨ヲ以テ支拂ヲシタル同額面ニシテ其間一割ノ差アルヲ以テ土民ハ紙幣ノ受授ヲ嫌フノ結果軍用手票至急送付方請求シ來レリ以テ如何ニ軍用手票ノ運轉良好ナルカラ知ル可シ

本句間手票ノ交換ヲナシタルハ八月二日一回ニシテ人員四十九人其交換金額六萬千貳拾壹圓ナリ

二 爲換送金ノ狀況

本句ニ於ケル振替送金ハ五萬九千九百七拾七圓六拾錢七厘ニシテ開始以來參拾四萬貳千九百貳拾六圓八錢六厘ナリ

明治三十七年九月十一日於墳上

第一軍經理部

金錢事項

本月中當金櫃部圓銀ノ使用ハ軍用手票ノ交換ニ充テタル外直接支拂タル事ナシ
 本月中旬軍用手票ノ交換ヲ行ヒタルハ八月二十六日一回ニシテ請求人員二百八十名交換參
 萬五千八百五拾圓ナリシ而シテ之レカ交換ニ充テタル基金ノ圓銀ハ本月二十日到著セル
 墨銀ニシテ稀ニ清國各省ノ鑄造ニ係ルモノヲ混セリ
 以上墨銀ハ新製古製ノ二種アリテ製造年次ニヨリ區別スレハ左ノ如シ
 古製 (千八百五十七年ヨリ千八百八十年ニ至ル鑄造)
 新製 (千九百年ヨリ千九百四年ニ至ル鑄造)
 當日交換要求者ハ兎角新製圓銀ヲ嫌惡スルノ傾アリ依テ二新古ノ圓銀ニ就キ其銀質ヲ
 點檢スルニ眞偽ハ素ヨリ其良否ニ至リテハ緻密ノ鑑定ヲナスニアラサレハ知ル能ハサル
 モ前製圓銀ノ古製ノモノニ比シ其質大ニ異ナルヲ認ム其ハ古製圓銀ノ良反響アルニ反シ
 新製ノモノハ往々反響ナキモノト又惡シキモノトアレハナリ故ニ交換人ハ古製ヲ望ム事

甚シク新製品ヲ受取タルモノハ之カ交換ヲ金櫃部ニ要求スルモノアルニ至レリ如此狀況
 ナルヲ以テ將來成シ得レハ古製ノモノ、ミ現送アラシコトヲ希望ス
 軍用手票ノ流通圓滑ナルハ毎旬報セシ通ナルモ當鳳凰城ノ如キハ其流通頗ル良好ニシテ
 目下諸般ノ金錢交換ニ通用セラレ居レリ交換ノ際集マリ來ル小額手票(拾錢貳拾錢)ノ如
 キニ至リテハ甚シク汚穢セルモノ多キヲ見ル是明ニ流通頻繁ナル確證ニシテ清國在來ノ
 通貨ニ比シ受授携帯ニ便ナルヨリ今ヤ市中一般ニ通用シツ、アリ如此ナルヲ以テ本月二
 十七日當地ニ開設セラレタル中央金庫派出所ノ如キ開設後日尙淺キヲ以テ斷言シ能ハサ
 ルモ通貨トノ交換ヲ申出ツルモノハ極メテ少數ナリ

明治三十七年九月十一日於墳上

第一軍經理部

金錢ニ關スル事項

貨幣通用ノ景況ハ太子河以南ノ各地ニ於ケルト異ナルコトナク軍用手票ノ流通ハ相變ラ
ス良好ナリ尙貨幣其ノ他金錢事項ニ關スル詳細ノ狀況ハ束ネテ後次ノ旬報ニ讓ル

明治三十七年九月二十日於鳳凰城

第一軍兵站經理部報告

一金錢事項

前旬報告シタル外特ニ報告スヘキ事項ナキモ軍用手票ノ流通ハ益圓滑ニシテ殆ト硬貨
ノ要ナキ有様ニテ從テ壹圓以下小額手票ノ需要増加シ各兵站部ヨリ續々請求セラレ、
ニ至レリ

本旬中軍用手票ノ交換ヲ實行シタルハ僅ニ一回ニシテ其日時ト請求人員及交換高左ノ
如シ

九月十六日人員三百三十三名 金額參萬千八百六拾四圓

一爲換送金ノ狀況

本旬ニ於ケル振替送金ハ八萬千八百八拾五圓六拾貳錢七厘ニシテ開始以來五拾五萬五
百五拾貳圓八拾貳錢五厘ナリ

明治三十七年九月三十日於鳳凰城

第一軍兵站經理部報告

一金錢事項

本月中旬軍用手票ノ交換ヲ實行シタルハ二回ニシテ其日時ト請求人員及交換高左ノ如シ

九月二十三日 人員三百七十九名 金額六萬五千五百參拾六圓

九月二十九日 人員三百七十二名 金額四萬八千七拾壹圓

明治三十七年十二月二十七日付滿鐵發第七六二號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

一軍站經甲第一九二號

明治三十七年十二月十七日

第一軍兵站經理部長 鶴田義紹

野戰經理長官外松孫太郎殿

目下營口ニ於ケル軍用手票ノ價格ハ銀貨ニ比シ約三割方下落ノ由傳聞セシニ付同地軍政委員ニ問合セタルニ別紙ノ通り返電シ來レリ而シテ下落ノ原因ハ全ク結氷前ニ於テ内外商人等多數ノ商品ヲ持チ込ミ之ニ對スル仕拂ニハ多ク銀貨ヲ要スルニ依ルコトハ事實ナルカ如シ然レトモ別紙「一」内ノコトハ單ニ軍政委員一個ノ意見ニ止マリ寧ロ手票ト圓銀トヲ竝用スルニ至レハ手票ノ流通ヲ妨クルコト韓國ニ於テ我軍已ニ之ヲ實驗セリ故ニ右ノ意見ハ採ルニ足ラス又「未タ信用ヲ得サル云々」ニ至テハ暴言ト云フモ過言ニアラサルヘシ何トナレハ目下日本軍到ル處手票ノ流通圓滑ニシテ些ノ故障アルヲ聞カサレハナリ營口ニハ内外多數ノ無賴商人集合シ一獲千金ノ利ヲ得ント種々ノ惡策ヲ企ツル結果自然手票ノ信用ニ影響ヲ及ホスコトアルヘシ是等惡商人ノ取締ヲ嚴ニスルコト急務ナランカ

軍用手票ノ信用ヲシテ倍々厚カラシムルニハ左ノ手段ヲ採ルコト良策ナルヘシ

- 一 手票ト圓銀トノ交換高ヲ多クスルコト
- 二 天津上海ヘノ爲替ニ手票ヲ以テ振込ミ圓銀ニテ仕拂フ途ヲ開クコト
- 三 正金銀行ニテ内地ヘノ爲替ニ手票ニテ振込ミ紙幣(手票壹圓ハ紙幣九拾錢)ニテ仕拂ハシムルコト(即時價ニ依ラス大藏省ノ指定相場ニ依ルコト)

警口軍政委員與倉少佐ヨリ來電譯寫

十二月十四日

近來軍用手票ノ特ニ下落セルハ目下結氷前俄ニ現銀ノ需用多キ爲メナルカ如シニ元來軍用手票ノ豫定價格ヲ持シ得サルハ未タ信用ヲ得サルニ先立テ準備金ニ比シ多クノ手票ヲ發行シツ、アル爲ナル故之ヲ救フニハ戰地ニ於テ當分銀貨ト手票ト並用ヒ仕拂ヲ受クルモノヲシテ銀貨ニテモ手票ニテモ其好ム所ニ從ヒ受取り得様爲スコト必要ナリ之ト同時ニ正金銀行ニ於ケル交換モ其高ヲ多クシ且ツ天津上海ヘ爲替ノ途ヲ開キ勉メテ手票ノ流通ヲ圓滑ナラシムレハ遂ニハ銀ト紙トノ差消滅スルニ至ラント思フ

警口ニ於ケル我軍用手票ニ就テ 鞅鞅生ノ所見
 右十二月二十五日東京朝日新聞ニ掲載アリ

明治三十八年二月一日於半拉山子

第一軍金櫃部長

戰地ニ於ケル軍用手票及圓銀流通ノ狀況報告

軍用切符ト圓銀トノ交換ヲ停止セラレタキコトニ就テハ昨年十月二十二日意見上申致置キ候處尙其後調査スルニ交換ノ結果トシテ軍用切符ノ購買力ニ影響スルコト少ナカラサル様思考セラル蓋シ之等ハ左ノ理由ニ基因スルナランカ

- 第一 銀行ニテ軍用切符ノ汚レタルモノ或ハ文字ヲ書キタルモノ汚染ノ度合ニヨリテ交換又ハ謝絶スルコト(軍政署ノ取調ニ依ル)
- 第二 支那銀行ニテ軍用切符ノ交換ヲナセリ而シテ其方法ハ少シク破損アリテモ交換セス(前ニ同シ)
- 第三 支那銀行ニテ軍用切符圓銀ノ交換ヲナセリ其方法ハ圓銀壹圓ニ對シ軍用切符ノ打歩ヲ付ス(前ニ同シ)
- 第四 遼陽及營口ニテハ通貨ト切符ト交換ノ道アレトモ該所以外ニ交換ノ道ナシ故ニ遠隔ノ地ニテハ切符ト通貨トハ大藏省指定以外ノ差ヲ持チ購買力ニ一層ノ影響

右ニ對スル意見

第一項 軍用切符ヲ最モ有效ニ最モ有利ニ使用セントセハ永ク民間ニ流通セシムルヲ可トス而シテ永ク流通セシムルニ從テ破レ又ハ汚損ノ程度ノ甚タシクナルコトハ蓋シ理勢ノ然ラシムル處ナリ然ルニ今日ノ銀行ノ處置タル非常ニ汚染セルモノハ取ラサルノ方針ナルカ如シ誤解ト云ハサルヲ得ス若シ銀行ノ今日トリツ、アル方針ニヨレハ可成新ラシキ切符ヲ交換シ民間ニ長ク流通シテ古ク且ツ汚レ又破レタル切符ハ絕對的ニ排除スルコト、ナルヘシ斯クテハ軍用切符ヲ民間ニ長ク流通セシメス仕拂直ニ引換スルト云フコトヲ勵行スルノ方針ト云ハサルヲ得ス之レ切符發行ノ旨意ト考フルコトヲ得ス若シ夫レ今日ノ如クハ非常ノ費用ヲ掛ケ又多クノ手數ヲ費シテ切符ヲ行使スルヨリモ寧ロ通貨ヲ以テ仕拂ニ宛ツルノ勝レルニ如カス

又紙幣ニ文字ヲ記入スルコトハ支那古來ノ習慣ナリ故ニ頑冥ナル彼等ハ古來ノ習慣ニ基キ不知不識ノ間ニ文字ヲ記入スルコトナシトセス而シテ之ヲ爲シタル爲メニ引換ヲ拒絕サル、ニ至テハ士民ノ感情果シテ如何大ニ考慮ヲ拂フノ價値アリト信ス可キ是等

ノ事情ハ一般ニ驚慌ヲ起サシムルノ主因トナリ其結果ハ延テ切符ノ信用ニ干係シツ、アリ

第二項 既ニ第一ニ於テ意見陳述セシ如ク金庫派出所ニ於テ汚染ノ切符ヲ交換セサル結果ハ一般ニ影響ヲ及ボシ土地金融機關タル支那銀行ニ於テモ僅カニ破損セル切符ニテモ交換セサルニ至ル而シテ一方土人間行使シ居ル支那紙幣ノ如キハ破損汚染原形ヲ止メス記字ノ如キモ其何タルヤ辨シ難ク此ヲシテ紙幣タルカヲ疑ハシムルニ至ルモ其流通力ハ却テ良好ナルカ如此ノ習慣ナルニ少シク破損シ或ハ汚染シタルヲ口實トシテ引換ヲ拒絶スルハ策ノ得タルモノニハアラス其結果トシテハ當金櫃部ニテ仕拂ヲナスニ方リテモ新ラシキ切符ト二三回使用セシモノトヲ混シテ交付スルトキハ二三回使用セシモノハ土人ニ於テ甚々厭惡スルニ至リ強テ之ヲ行使スルハ不快ノ感ヲ以テ迎フニ至ルノ傾ヲ呈セリ

第三項 一般土人ハ銀ヲ愛シ切符ヲ好マサルハ頑冥ノ彼等ノ情態ニシテ又如何トモスル能ハス然レトモ此ノ弊ヲシテ一層強カラシムルモノハ圓銀ト切符ト交換セシ爲メニハアラサルカト思ハル現ニ支那銀行ニテ切符ト圓銀ト交換スルニ方リ六七錢ノ打歩ヲ付

シテ交換スルカ如キハ最モ宜敷カラス若シ夫レ之ヲ觀過センカ一方ニ切符ヲ嫌フ念ヲ一層強カラシムルニ至ルヘシ既往ニ徴シ將來ヲ鑑ミレハ少額ノ交換ヲナスヨリハ斷然之ヲ停止スルニ如カスト思ハル蓋シ軍用切符ノ信用ハ今日ニ於テハ何處ニ至ルモ行使上ノ支障アルコトナキカ如此果シテ然ラハ此際益ナキ交換ヲ續行スルヨリハ寧ロセサルヲ可トス況ンヤ紙幣ニ於テヲヤ

第四項 我軍ノ韓國ニ上陸スルヤ土人ハ未タ軍用切符ノ效力ヲ信セス行使上頗ル困難ナリシモ種々ノ方便ヲ以テ之カ行使ニ努メ漸次信用ヲ興シツ、滿洲ニ侵入セリ其滿洲ニ於ケル切符ノ情況モ初メハ韓國ニ讓ラス爲メニ苦辛酸慘百難ヲ排シ漸クニシテ信用ヲ博シ今日ニ至リテハ如何ナル寒村僻地ト雖トモ良好ニ流通セサルナシ故ニ當局者ハ一層切符ノ行使ヲシテ最モ有利ニ且ツ有效ナラシムルノ策ヲ取り購買力ニ於テモ殆ント通貨ト同一價格ニ使用セリ然ルニ土人中ニハ通貨ト差アル事ヲ發見シタル爲メ爰ニ一ノ物品ヲ提供シ通貨ナラハ七拾五錢切符ナラハ壹圓ト云フ如ク指定以外ノ價格ノ差ヲ有スルニ至レリ是レ畢竟スルニ銀行ニ於テ汚染又ハ破損ノ切符ハ交換セス又支那銀行ニ於テ圓銀ニ打歩ヲ付シ交換シ居ルモ是等ヲ制裁セサル爲メ來リタル自然ノ結果ナル

ヘシ若シ夫レ如此シハ如何ニ當局者ニ於テ巧妙ニ有利ニ切符ヲ行使スルモ到ル處不結果ニ終ルノ恐レナシトセス殊ニ軍用切符發行旨意タル其引換ノ如キハ或ル信用ヲ得ルノ程度ニ止メ漸次引換ヲ停止スルノ方針ナラシ今日ノ如キ長ク民間ニ流通セシメス仕拂直チニ引換ヲ勵行スルノ有様ニテハ僻地ニアルモノ折角切符ヲ得ルモ是カ交換ノ機關ナク長ク所持シ汚染或ハ破損セシカ又流通セサルヲ恐レ打歩ヲ付シ賣買スルニ至ルヘシ而シテ其影響スル處ハ一ニ切符其ノ物ノ信用ニ關係シ隨テ購買力ヲ減シ今日ノ好望ハ他日救フヘカラサル悲運ニ陥ル事ナシトセス是レ大ニ救濟策ヲ今ヨリ講スルヲ必要アル所以ナリ

以上述べル如ク軍用切符ノ信用ハ至ル處好望ヲ以テ迎ヘラレ最モ有利ニ且ツ有益ニ使用セラレツ、アルニアリテハ發行ノ旨意ヨリ考フルモ又内地正貨準備ニ影響スル點ヨリ考フルモ今日引換ヲナスノ必要ナシト信ス強テ之カ引換ヲナサントセハ紙幣或ハ銀塊ヲ以テ小規模ノ交換ヲナスヨリハ硬貨ヲ以テ大規模ノ引換ヲナスニ如カス而シテ此等大規模ノ引換ハ今日ノ情況ニ於テハ果シテ至當ナルヤ否ヤ之レカ疑問ニ屬ス故ニ小規模ノ引換ヲナスヨリハ寧ロ引換セサルニ如カス況シヤ軍用切符ト紙幣トノ引換ニ於テラヤ蒙昧ニシテ頑冥ナル

土人ノ目ヨリ見ルトキハ紙幣モ切符モ均シク紙ニシテ金貨ト云ヒ又銀貨ト云フハ一ノ理想ニ過キス故ニ土人ノ目ヨリ見ルトキハ切符モ紙幣モ同一視シ居ル事ハ鳳凰城以來親シク實見セシ處ナリ然ルニ遼陽占領以來金ト銀トノ差アルヲ土人ノ知りタルハ一ハ銀行ノ引換ニモヨルナラシカ商業ノ中心タル天津芝罘等ヨリ取引スルノ結果ナラン而シテ切符ハ銀ト交換セラレタルモ紙幣ニ對シテハ交換ノ道ナガリシ爲メ土人ハ實質上硬貨ト交換シ得ラル、モノヲ好ミ其結果切符流通ラシテ益、有效有利ナラシメシモノニシテ其信用愈、多ク如何ニ多ク撤布スルトモ敢テ之カ交換ヲ請求スルモノ絶テナシ故ニ之ノ件ニ就テハ前陳ノ如ク引換停止ニ付テ意見上申セシ位ナリ然ルニ昨今ニ至リ切符流通上少シク滯滞ノ迹ヲ見ルニ至リシハ果シテ何ニ基因スルカ思フニ交換ノ行ハレサルニ依ル影響ヨリモ交換ノ爲メ却テ切符ノ聲價ヲ落シタルニ因ルモノ、如シ其事タル未タ小ナリト雖トモ切符行使上ノ將來ヲ想ヘハ實ニ等閑ニ附シ難キノ痛患ナリ今日ノ場合金庫派出ノ如キハ宜シク各部隊カ如何ニ切符行使上ニ考慮シ居ルカヲ顧ミテ共ニ其方針ヲ取ルアラハ圓滿ナル前途モ望ミ得ヘシト雖トモ漫然其欲スル處ヲ實行シテ他ノ苦心焦慮スル處ヲ滅却セシメ敢テ知ラサルモノ、如キ嫌アルニ至リテハ實ニ慨嘆セサルヲ得ス

之ヲ要スルニ金庫派出所モ又切符行使上主人ヲシテ信用ヲ博スル手段トシテ現在ノ業務ヲ進行シツ、アルナルヘシ而シテ他方面ノ各部隊モ又之カ信用ヲ博スルノ方法ニ就テ百方考慮シツ、アリ而シテ兩者ノ間ニハ氣脈ノ通スルモノナキ爲メ今日ノ弊害ヲ醸スニ至レルモソト云ハサルハカラス而シテ之カ連絡ノ責ヲ盡サハハ必ラスシモ一方ノミヲ責ムハキニアラスト雖トモ主トシテ交換者其者ノ缺點ト云ハサルヲ得ス如何ナレハ交換ハ切符ノ流通ヲ良好ナラシムル爲メニ爲スモノナレハナリ然リ此ノ目的外ニ交換ノ必要ヲ認め難ケレハナリ然ラハ交換ノ任ニアルモノ之カ連絡ヲ取り以テ當時行使ノ現情ヲ知ルヘキ責アレハナリ一言ニシテ之ヲ掩ヘハ金庫派出所現在ノ行務ノ如キハ片輪ノ行務ト云ハサルヲ得ス切符行使ニ圓滿ナラシムルノ交換ニシテ却テ行使ノ上ニ不結果ヲ生セシメントス如此ンハ斷然之カ交換ヲ停止セサルヲ得サルモノナリ若シ他ニ事情止ヲ得サルモノアリテ停止シ難シトセハ單ニ金庫派出所ノミソ交換ニ止メス各金櫃部等ニテモ之ヲ實行シ前陳ノ如ク各地ノ切符ニ價格ノ差ヲ生セシメス尙ホ出來得ル限り長ク切符ノ民間ニ止マリテ流通シ得ル如クセサルヘカラス之レ實ニ急速救済セサルヘカラサルノ問題ト認め意見上申候也

六十

各地貨幣參考表

遼陽ニテ
 圓銀壹圓
 紙幣壹圓拾錢
 軍票九拾錢

營口ニテ
 圓銀壹圓貳拾錢
 紙幣壹圓參拾錢
 軍票九拾錢

奉天ニテ
 露國紙幣壹圓貳拾錢
 右ハ何レモ支那貨ニ對スル相場トス

六十一

明治三十八年四月一日於飄起屯

第一軍經理部長 關本茂行

金錢事項

貨幣通用ノ狀況ハ前地境ニ於ケルト異ナルコトナシ

滿洲ニ於ケル通用貨幣ヲ軍用手票ノ一種トスルコトニ就テハ總參謀長ノ電問ニ對シ當時大略ノ意見ヲ呈シ置ケルカ爾後何等ノ消息ヲ聞カス

(イ) 滿洲ニ於ケル通用貨幣ヲ軍票ノ一種トスルコトニ就テ全ク同意ナリ

(ロ) 指定相場ハ變動ナキヲ要ス何トナレハ變動アレハ受給者ハ其都度損益ヲ受クヘキヲ以テナリ

(ハ) 十錢以下ノ金額ヲ支給スル場合多キヲ以テ之ニ應スル小手票又ハ他ノ小貨ノ設アルヲ要ス

(ニ) 内地ニ於テ法貨ト交換スルノ便法ヲ設クルヲ要ス

補充軍資金ヲ兵站經理部ヨリ現送セシムルハ便ハ便ナリト雖之カ永續ハ該經理部ノ到底堪ヘ得サル所ナルヘシト認メラル又大額面ノ貨幣ハ補充ニ差岡ナカルヘキモ補助貨ニ至テハ

融通往々困難ヲ來スヘシト思量セル軍用手票ニ贖物出テタリトノ電示ニ接シタル以來相警戒シテ充分ノ注意ヲ拂ヒ居レルカ當方面ニ於テハ幸ヒニシテ未タ其發現ヲ見ス

明治三十八年五月二十三日付滿鐵發第三五七號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

六十四

明治三十八年 自四月一日 至同二十日 於大瓢屯

第一軍兵站經理部經理報告

金錢事項

一 爲替送金ノ狀況

振替送金ノ受領高ハ第一句中ノ分七萬五千參百圓四拾九錢貳厘第二句中ノ分壹萬貳千拾貳圓四拾八錢壹厘ニシテ開始以來累計貳百拾壹萬八千參百七拾五圓六拾壹錢五厘ナ

明治三十七年六月七日付滿鐵發第三六四號ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

明治三十七年五月十四日

第二軍經理部長片山中行報告中抜萃

金櫃事務

軍金櫃部ハ本月七日董家屯ニ圓銀交換所ヲ開設セリ軍用手票ハ圓滑ニ流通シ土人ノ信用極メテ厚シ

曩キニ間隙ニ使用セシムル目的ヲ以テ墨銀參千圓請求セシ所電文不明ノ爲メ同銀貳萬圓丹波丸ニテ到着シ本月十日受領セリ

六十五

明治三十七年六月十三日付滿鐵發第三七七號ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

六十六

自明治三十七年五月十五日第二軍々資金使用ニ關スル週報(第四回)
至同五月二十一日

第二軍經理部

一 本週間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通り

軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
二二,四九一,〇〇〇	一,三三九,〇〇〇	六五,〇〇〇

(一) 圓銀交換額中通貨ニテ受入タル額金六三圓九〇〇アリ

(二) 軍用切符使用額及圓銀使用額ハ左記諸部隊ノ分ニシテ他ハ報告未著ニ付純額ヲ掲ク

- ル能ハス但圓銀使用額ハ大差ヲカルベシ
- 第三軍管理部 第二軍糧餉部 第三第四電信隊 砲兵第十三第十四聯隊 第一第四師團ノ十部

二 軍用切符使用ノ狀況
前週報ニ異ナラス而シテ第四師團ノ報告ニ依レハ某大隊ノ如キハ下士卒ノ希望ニ依リ給料約百分ノ四十五ハ軍用切符ヲ渡セリト

三 軍用切符ト圓銀等ノ交換狀況

五月十五日軍用銀票兌換所第二軍金櫃部ハ他部ト共ニ大姚家屯ヨリ車家屯ヘ轉進車家屯ニ於ケル交換回数ハ三百六十五回ニシテ此額中二二三九圓〇〇〇ヲリ

四 圓銀使用方
前週報ノ通り

六十七

野戰經理 經受第二四〇五號 六月十七日

自明治三十七年五月二十二日第二軍々資金使用ニ關スル週報
至同 五月二十八日

第二軍經理部

一 本週間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通り

軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
二九三三三〇〇	四四九〇〇〇	八〇〇〇

軍用切符及圓銀使用額ハ左記諸部隊ノ分ニシテ他ハ報告未著ニ付純額ヲ掲クル能ハス

但シ圓銀使用額ハ大差ナカルヘシ

第二軍糧餉部 第二軍管理部 野戰砲兵第十三聯隊 野戰砲兵第十四聯隊 第三野戰電

信隊 第四野戰電信隊 第五野戰電信隊 第三師團ノ一部 第四師團 第五師團ノ一部

二 軍用切符使用ノ狀況

前週報ニ異ナラス而シテ清國人間ノ取引ニモ軍用切符ヲ使用シ居レリ如此切符ノ流通

良好ニシテ却テ兌換券ヲ望マサルノ結果本邦人ノ定額給與ノ如キモ其若干ハ軍用切符

ノ交付ヲ希望スルニ至レリ

三 軍用切符ト圓銀トノ交換狀況

五月二十二日軍用銀票兌換所第三軍金櫃部ハ他部ト共ニ車家屯ヨリ劉家店ヘ五月二十

五日劉家店ヨリ鐘家屯ヘ五月二十六日尙金山北麓ヘ五月二十七日金州南門外劉家店ヘ

轉送劉家店ニ於ケル交換回数ハ十五回ニシテ此額ハ四四九圓〇〇〇ナリ

四 圓銀使用方

前週報ノ通り

自明治三十七年五月二十九日第二軍々資金使用ニ關スル週報(第六回)

第二軍經理部

一 本週間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通り 朱書ハ從來報告未著部隊ノ内到達セシモノニ係ル(△印ハ朱書)

軍	兵	計	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
五〇六七三〇〇〇	三九五八四六九〇	二二三、四四一、七九〇	五五二〇〇〇	二三三〇八〇〇〇	五四一〇〇〇
△	一二三、一八五、一〇〇	△	一〇、六九二、〇〇〇	三、四五五、二〇〇	六、五〇〇、〇〇〇
					六〇六、〇〇〇

切符及圓銀使用額ハ左ノ部隊ノ分ニシテ他ハ報告未著但圓銀ハ大差ナカルヘシ

管理部、糧餉部、第三師團、第五師團ノ一部、騎兵第十四聯隊、第三電信隊、砲兵旅團

二 軍用切符使用狀況

前週報ニ異ナラス

三 軍用切符上圓銀上ノ交換狀況

本週迄ノ經過ニ徴スルニ南方ハ北方ニ比シ交換ノ請求少ナクシテ切符ハ其儘流通シア

リ但何時ニテモ日本ニ携行セハ兌換シ得ラルモノト信シ居レリト將來北進スルニ從ヒ

兌換ハ増進スヘシト豫期ス

本週間劉家店ニ於ケル軍ノ交換回数ハ拾八回、蔡家屯ニ於ケル兵站ノ交換回数ハ五百

三十五回ナリ軍金櫃部ハ六月四日他部ト共ニ張家屯ニ轉進

四 圓銀使用方

主トシテ參謀部ニ於ケル機密費ニ使用セルモノニシテ他ハ前週報ノ通り

明治三十七年六月二十三日

第二軍經理部報告

軍用切符ノ信用 切符ハ到ル處大概ヨク流用スルコト前報告ト異ルコトナシ但シ日本軍ノ
状態少シク不利ナル如ク土人ノ眼ニ映スルトキハ忽チ其價格ヲ下落スルハ止ムヲ得サル
所ナリ

左ニ掲ケルハ秋山騎兵第一旅團長報告中ノ二節ナリ

皮子窩附近ハ我軍用證券ノ價格殆ント半ハニ下落ス故ニ我守備線外ニテハ寧ロ圓銀ヲ用
ユルヲ利益ト考フ要スルニ軍用證券ノ價格ヲ下落セシムルハ將來ノ爲メ得策ニアラスト
信スルヲ以テ爲シ得レハ守備線外ニ於テモ交換法ノ便ヲ取ラハ、コト必要ト考フ目下皮
子窩ノ狀況我軍用證券ノ約三分ノ一ヲ交換セハ其信用ヲ維持シ下落ヲ防止スルコト容易
ナリト信ス

右信用回復ニ付テハ直ニ兵站經理部長ニ訓示シ善後ノ策ヲ講セシメタリ

明治三十七年六月二十三日報告

第二軍兵站經理部

一 金錢事項

一般ノ狀況ハ前旬ニ同シク凡テ好況ナリ
金櫃中ノ業務ハ頗ル複雑トナリ豫テ稟申ノ増員ナクテハ業務ヲ遲滞セシムルノ止ムヲ得
サルモノアリ

目下兵站司令部ノ開設シアルモノ十個(張家屯、轉角房、普蘭店、瓦堡店、得利寺、李家店、復
州、亮甲店、金州、皮子窩)ニシテ不日開設セラル、モノ瓦房店、熊岳河口、蕉家屯、柳樹屯、龍
口ノ六個所アリ合計拾六個ノ兵站司令部ト爲リ且ツ少クモ一個ノ圓銀交換所出張所ヲ開
設セサルヘカラス然ルニ直接分任官ノ數ハ約九十二ニシテ計算検査事務及貨幣ノ現送圓銀
交換野戰郵便ヨリノ受入等業務甚タ繁雜ヲ極メ居レリ破損軍票ノ交換方ハ別段ノ規定ナ
キニ依リ普通規定ノ通り損傷度ニ應シ交換ヲ實行シツ、アリ
六月第二旬圓銀交換高振替送金高軍用切符支出高左ノ如シ

月 日	圓銀交換高	振替送金高	軍用切符支出高
六月十一日	一〇三、七二〇〇〇	一、三六七、六八五	〇
同 十二日	三、五五三、〇〇〇	三、二六八、二四〇	五、〇〇〇、〇〇〇
同 十三日	七、八八九、〇〇〇	二、九六一、八九〇	一、九二九、〇〇〇
同 十四日	五、二一八、〇〇〇	三、八八二、七一五	四、〇〇〇、〇〇〇
同 十五日	三、四八一、〇〇〇	五、〇六五、九六六	五、八〇〇、〇〇〇
同 十六日	五、六三七、〇〇〇	二、七六〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同 十七日	〇	八三、〇〇〇	八、六五〇、〇〇〇
同 十八日	三、三六三、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、六二四、八七〇
同 十九日	三、六八五、〇〇〇	七、九七八、八六〇	〇
同 二十日	六、二一八、〇〇〇	二、二一九、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
合計	四九、三二五、〇〇〇	四四、三九五、八八六	四四、四八〇、九七〇

備考

- 一 場所ハ凡テ茶家屯兵站金櫃部交換所ニ於テセシモノニ係ル
- 二 十七日ニ於ケル圓銀交換高ナキハ雷雨ノ爲メ申出テナキニ依ル

三十七年六月二十九日報告

第二軍

軍用切符ノ各地方ニ於ケル信用ノ程度ハ漸次北進スルニ隨ヒ稍薄ラクカ如シ蓋シ新ニ進入スル村落ニ於テハ未タ其性質ヲ知ラサルカ爲メ之ヲ嫌フモノアレハナリ然レトモ其性質及交換方法ヲ懇篤ニ説明シタルノ結果圓滿ニ流通スルニ至レリ



明治三十七年七月十三日

第二軍經理部

一金櫃事務

兵站地域ノ擴張ト大雨前糧秣雨覆ノ準備、海路輸送地方調辨品(輸送額カヌ爲メ軍隊迫リ糧秣品)ノ購買等ノ爲メ仕拂額ニ増加シタリ然ルニ軍用手票ノ製造間ニ合ハサル趣ヲ以テ補充遅延ノ爲メ金櫃部ノ現在手薄クナリ止ムヲ得サレハ通貨及圓銀ヲ以テ仕拂ヲ要スルニ至ラサルカヲ懸念ニ堪ヘス果シテ茲ニ至ルトキハ從來苦心經營ノ結果軍票ノ流通意想外ニ好況ナルモノヲ打破スルノ姿トナリ頗ル遺憾ニ堪ヘス
通貨及圓銀ハ益々用途少ナク從テ補充ヲ要セサル姿ニ在リ

七十六

自明治三十七年六月十二日 第二軍々資金使用ニ關スル週報(第八回)
至同 六月十八日

第二軍經理部

一 本週間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通り 朱書ハ從來報告未著部隊ノ内到達セルモノニ係ル。但圓銀ハ管理部門ノ報告洩レ。(△印ハ集計)

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	二八四七五四九〇	八六〇〇〇〇	一八〇〇〇〇〇
兵	二六一九〇五〇〇	二九一四〇〇〇〇	〇
計	六五五九四四〇〇	三〇、〇〇〇〇〇〇	一六二八〇〇〇〇

(一) 圓銀交換額中通貨ニテ受入タル額 軍ニ於テ 金二〇三三〇〇〇アリ 兵站ニ於テ 金八六〇〇〇〇アリ

(二) 切符及圓銀使用額ハ左記部隊ノ分ニシテ他ハ報告未著但圓銀ハ大差ナカルヘシ
管理部門糧餉部 第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五
電信隊、騎兵旅團、砲兵第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五
聯隊、第三師團、第五師團 一部
兵站ノ一部

二 軍用切符使用ノ狀況

北進スルニ從ヒ多少滯滞ノ傾向アルモ告示及懇諭ニ依リ通用ヲ妨ケス將來亦如此ナルヘシ

七十七

三 軍用切符ト圓銀トノ交換狀況

特記スヘキ事項ナシ

但軍金櫃部ハ他部ト共ニ六月十三日張家屯ヲ出發シ俞家屯、李家屯、祝家屯ヲ經テ災
山子へ轉進、兵站金櫃部ハ蔡家屯ニ在リ

四 圓銀使用方

糧餉部出納官吏ニ於テ使用セシモノナリ

明治三十七年八月二十四日付滿鐵第五七五號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

自明治三十七年六月二十六日 第二軍々資金使用ニ關スル旬報(第十回)
至同 七月十日

第二軍經理部

一 本旬間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通 朱書ハ從來報告未著部隊
ノ内到達セシモノニ係ル(△印ハ朱書)

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	二四一四五五四七〇	五五〇六〇〇〇	一六七一〇〇〇
兵	三〇九二六二三〇〇	二八八五五〇〇〇	〇
計	六三九一九三七七〇	三四、三六一〇〇〇	一、六七二〇〇〇

- (一) 圓銀交換額中、通貨ニテ受入シタル額 軍ニ於テ 金一五八七〇〇〇アリ
兵站ニ於テ 金二二四〇〇〇〇アリ
別ニ通貨ヲ受入レ軍用切符ヲ渡シタル額 軍ニ於テ 金二五〇〇〇〇アリ
- (二) 切符及圓銀使用額ハ左記部隊ノ分ニシテ他ハ報告未著但圓銀使用額ハ大差ナカルヘ
シ
管理部 糧餉部 第三 電信隊、砲兵旅團、騎兵旅團 第三師團、第四師團、第五師團、兵站(一
部缺)
- (三) 第六師團ハ別紙ノ通

二 軍用切符使用ノ狀況

蓋平地方ハ圓滑ニ流通ス前途亦支障ヲ生スル如キコトナカルヘシ

三 軍用切符ト圓銀トノ交換狀況

特記スヘキ事項ナシ但軍金櫃部ハ他部ト共ニ七月六日北大崗寨ヨリ正白旗ヘ七月七日正白旗ヨリ前安平ヘ七月九日前安平ヨリ蓋平ヘ轉進ス兵站金櫃部ハ七月一日ヨリ二日ニ渡リ蔡家屯ヨリ普蘭店ヘ轉進ス

四 圓銀使用方

管理部ニ於テ機密費ニ一、一四七圓騎兵第十三聯隊ニ於テ五、二四圓使用セシモノアリ

(別紙) 明治三十七年七月第一句軍用切符及圓銀使用旬報

一 自六月二十六日使用高
至七月十日使用高

軍用切符	八八七二六
圓銀	三〇〇

二 使用ノ景況

良好ナリ

明治三十七年九月四日付滿鐵發第五九五號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

自明治三十七年七月二十一日至同 同三十一日

第二軍經理部

一 本旬間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通

朱書ハ從來報告未著部隊
内到達セシモノニ係ル(ハ印ハ朱書)

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	二六七〇五二・七五	八五九三〇〇〇	〇
兵	二八四七一七〇〇〇	一四七〇〇〇〇〇	四三三二〇〇〇〇
計	四二八五七四〇〇	一三三、一九三〇〇〇	四三三二〇〇〇〇

(一) 圓銀交換額中通貨ニテ受入タル額軍ニ於テ 金二〇二、〇〇〇〇〇アリ
切符及圓銀使用額ハ軍ハ直屬部隊(騎兵第十三聯隊)及第三、四、五、六師團ノ分ニシテ兵站ハ一部缺

二 軍用切符使用ノ狀況

大石橋地方ハ圓滑ニ流通ス前途亦支障ヲ生スル如キコトナカルヘシ第四師團ノ報告ニ依ルニ營口ニ於テ物資調辨ノ爲メ歐米商人ニ對シ仕拂ヒタルニ清國人ト異ナルコトナク快ク之ヲ受領セリト



三 軍用切符ト圓銀トノ交換狀況

第四、第五師團ハ月末ニ至リ軍用券ノ現送ヲ得タルモ他ハ殆ト缺乏ニ類シ就中兵站ニ於テ最も甚シキニ依リ之カ吸收ヲ計ル爲メ兵站金櫃部ハ普蘭店ノ外、張家屯、復州及ヒ熊岳城ニ兌換所ヲ開キタルモ效果ヲ奏セス
軍金櫃部ハ七月二十三日古家子ヨリ東部高家屯ヘ二十四日禿老婆店北方ヘ、二十五日橋臺鋪ヘ他部ト共ニ轉進兵站金櫃部ハ普蘭店ニ在リ

四 圓銀使用方

軍用券缺乏ノ爲メ兵站轉角房兵站司令部ニ於テ直接拂ヲ爲スノ不得已ニ至レリ他ハ辛フシテ直接拂ヲ避ケツ、アリ

滿經發第六一〇號

回答

明治三十七年九月十七日

陸軍省經理局長 外松 孫太郎

大藏省理財局長 水町 袈裟六殿

第二軍經理部ニ於ケル圓銀交換額報告中通貨ニテ受入タルモノアル件ニ付本月八日附國祕第五一一號ヲ以テ御照會之趣了承右ハ土民ニ於テ補助貨ヲ提供シ圓銀ト交換ヲ求メタルモノ有之之ニ應スルヲ流通上得策ト認メ通貨壹圓ニ付圓銀一箇ノ割合ヲ以テ交換セシ趣ニ有之候

明治三十七年自八月十日

第二軍經理部

金錢事項

兵站經理部前旬報告ノ如ク軍用手票缺乏ノ爲メ止ムヲ得ス直接圓銀ヲ使用スルニ至レリ
 其合計七萬貳千四百拾參圓ニシテ尙繼續セサルヲ得サル状態ナリシモ本月七日追送ノ現
 金到着シタルヲ以テ多額ニ上ラステ止ムニ至レリ從テ軍票ノ信用上多大ノ影響ヲ蒙ル
 コトナクシテ止ミタリ

明治三十七年八月十五日

第二軍兵站經理部

金櫃事務

前旬報告ノ如ク軍用手票缺乏ノ爲メ止ムヲ得ス直接圓銀ヲ使用スルニ至レリ其合計七萬
 貳千四百拾參圓ニシテ尙使用ヲ繼續セサルヲ得サル状態ナリシモ幸ヒナル哉平山主計正
 護送ニ係ル軍用手票到着シ七日之ヲ受領シテ急速各地ニ前渡セシ爲メ直接使用ハ多額ニ
 上ラステ止ムニ至レリ從テ軍用手票ノ信用上多大ノ影響ヲ蒙ルコトナクシテ止ミタリ
 本旬振替送金高軍用切符支出高圓銀交換高左ノ如シ

明治三十七年八月十五日

第二軍兵站經理部

日 別	振替送金高	軍用切符支出高	圓 銀 交 換 高		
			海 山	平 岳	州
八月一日	〇	〇	〇	〇	五〇〇〇〇〇
同 二 日	〇	二二五〇〇〇〇	〇	〇	二六〇〇〇〇〇
同 三 日	〇	五三〇〇〇〇〇	〇	〇	九〇〇〇〇〇〇
同 四 日	〇	二八五〇〇〇〇	〇	〇	〇
同 五 日	〇	二九六〇〇〇〇	八九七九〇〇〇	〇	〇
同 六 日	〇	一四九〇〇〇〇〇	二二七四〇〇〇〇	一六七二〇〇〇〇	〇



合 計	同 十 日	同 九 日	同 八 日	八 月 七 日
九六六八六〇〇〇	〇	二二五〇〇〇〇	二二八六六〇〇〇	一四五四〇〇〇〇
四三〇〇〇〇〇	〇	二七〇〇〇〇〇	三二五八〇〇〇	一四二四二〇〇〇
二九五六〇〇〇	〇	〇	五〇八〇〇〇	一七七六〇〇〇
二〇〇〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇

八十六

明治三十七年八月十九日小倉軍軍令陸軍省經理局長甚外松孫太郎ニ
 大藏省理財局長水町架装大殿
 第二軍兵站經理部ヨリ別紙ノ通電報有之候間及御送付候條事實ノ有無御取糺ノ上其向ヘ相
 當御注意相成候様致度此段及御照會候也
 (別紙) 第二軍兵站經理部ヨリ經理長官宛
 八月十七日電報
 天津正金銀行支店ハ弗ニ對シ軍票九拾參錢ノ相場ニテ扱ヒ居ルト又電文ニ依レハ戰地タル
 營口支店ニテモ同様ノ扱ヒラ成サントスル由右ハ軍票下落ノ原因トシテ由々シキ大事ト認
 ム之ヲ未前ニ防ダ爲メ其筋ニ嚴談スラコトヲ望ム同地ニハ當金櫃部圓銀交換所ヲ開キア
 リ念ノ爲メ
 第二軍兵站經理部
 八月十七日

滿經發第五四九號

明治三十七年八月十九日小倉軍軍令陸軍省經理局長甚外松孫太郎ニ
 大藏省理財局長水町架装大殿
 第二軍兵站經理部ヨリ別紙ノ通電報有之候間及御送付候條事實ノ有無御取糺ノ上其向ヘ相
 當御注意相成候様致度此段及御照會候也
 (別紙) 第二軍兵站經理部ヨリ經理長官宛
 八月十七日電報
 天津正金銀行支店ハ弗ニ對シ軍票九拾參錢ノ相場ニテ扱ヒ居ルト又電文ニ依レハ戰地タル
 營口支店ニテモ同様ノ扱ヒラ成サントスル由右ハ軍票下落ノ原因トシテ由々シキ大事ト認
 ム之ヲ未前ニ防ダ爲メ其筋ニ嚴談スラコトヲ望ム同地ニハ當金櫃部圓銀交換所ヲ開キア
 リ念ノ爲メ
 第二軍兵站經理部
 八月十七日

第二軍兵站經理部長ヨリ經理長官宛

八月十七日電報

天津正金銀行支店ハ弗ニ對シ軍票九拾參錢ノ相場ニテ扱ヒ居ルト又電文ニ依レハ戰地タル
 營口支店ニテモ同様ノ扱ヒラ成サントスル由右ハ軍票下落ノ原因トシテ由々シキ大事ト認
 ム之ヲ未前ニ防ダ爲メ其筋ニ嚴談スラコトヲ望ム同地ニハ當金櫃部圓銀交換所ヲ開キア
 リ念ノ爲メ
 第二軍兵站經理部
 八月十七日

第二軍兵站經理部

八十七

明治三十七年自八月十一日第二軍々資金使用ニ關スル旬報

第二軍經理部

一、本旬間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通、朱書ハ從來報告未著部隊ノ内到達セシモノニ係ルハ△印ハ朱書ノ

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	二六、二九八、八三〇	五、六一四、〇〇〇	四、三七九、九〇〇
兵	三、五四四、七七〇	四、二〇七、九〇〇	八、六五〇、〇〇〇
計	二九、八四三、六〇〇	九、七二一、九〇〇	一三、〇三〇、〇〇〇

（切符及圓銀使用額、軍ハ直屬部隊（騎兵第十四聯隊缺）及第三、四、六師團ノ分ニシテ兵站

ノ切符及圓銀使用額、兵ハ各師團ノ切符及圓銀使用額ニシテ

至ニ軍用切符使用ノ狀況、無事時ニ於テ、兵站ノ切符及圓銀使用額、其ノ内、圓滑ニ流通ス但圓銀ノ直接拂ヲ爲シタルノ結果トシテ多少影響スル處ナキヤヲ顧慮セ

シモ何等カ支障ヲ生セス事要ス

軍及兵站トモ五拾錢以下ノ小額軍用券殆ント拂底、特ニ兵站ニ於テ甚シク爲メニ窮策

ヲ施シツマアリ

三 前旬ニ報告セシ軍用切符ノ效力ニ付キ謠言蜚語ニ關スル告示文ハ別紙ノ通
軍用切符ト圓銀トノ交換狀況

兵站金櫃部ハ營口ニ軍用銀票兌換所ヲ開設シタルニ本旬ノ結果左ノ如シ

一 圓 銀 一三、二八九、〇〇〇 人員 九十八名

四 圓銀使用方

前旬報ノ通り但七〇、〇〇〇ハ軍管理部ニ於テ機密費ニ使用シタルモノナリ

小口仕拂等三時時支障ヲ訴フルモ少カラス依テ次ノ手段ヲ取リテ合符
 六 曩ニ清人ニ拂ヒタル小切符ト交換ノ策ヲ取ルコト
 三 白銅銅貨等ヲ以テ補助セシムル策ヲ取ルコト
 三 圓銀交換所ヲ開設セシメ附近ニ在リテ交換シタル小切符又ハ苦力頭ヲシテ一ト
 本報ニシテ圓銀ヲ交換分配セシムル策ヲ取ルコト
 然ルニ右ノ第一策ハ行ハレス第二策ハ仕拂上其繁ニ忍ヒサルカ分任官ニ交付セント
 スルモ受領セス第三策ハ僅ニ之ヲ行ハレツバアリト雖モ其範圍狹キヲ以テ殆ント窮
 狀ヲ呈シツバアリ更ニ種々方法ヲ講シ此窮狀ヲ救ハント考案中ニアリ但シ曩ニ受
 領セシ小切符七拾萬圓ハ總テ熊岳城以南ニ於テ使用セシメ爲メ目下毫モ小札ヲ有セス
 本句ニ於テ大石橋及ヒ營口ニ圓銀交換所ヲ開設セリ

第二軍經理部

軍令自明治三十七年八月三十一日第三軍々資金使用ニ關スル旬報(第十五回)
 至同 八月三十一日 人員 第二軍經理部

一 本旬間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通(朱書ハ從來報告未著部隊
 内到着セルモノニ係ル(△印ハ朱書))

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	五五九〇〇〇〇	〇	〇
兵	三五〇〇〇〇〇	〇	三五〇〇〇〇〇
計	九〇九〇〇〇〇	〇	三五〇〇〇〇〇

切符及圓銀使用額軍ハ直屬部隊及第三四六師團ノ分ニシテ兵站ハ一部缺

二 軍用切符使用ノ狀況
 圓滑ニ流通ス前途亦顧慮ヲ要スルコトナシト信ス

三 軍用切符ト圓銀トノ交換狀況
 兵站金櫃部ノ營口ニ於ケル本旬間兌換ノ結果左ノ如シ

一 圓 銀 一八二七二〇〇〇 人員 三百四人

明治三十七年八月三十一日 九十三

自明治三十七年九月一日第二軍々資金使用ニ關スル旬報

第二軍經理部

一 本旬間軍用切符及圓銀ノ出入左列通 朱書ハ從來報告未著部隊ノ内到達セシモノニ係ケルハ朱書

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	一七六三、七五〇	四四五、〇〇〇	五三三、〇〇〇
兵	六、九三〇、八〇〇	三、一七六、〇〇〇	六八〇、〇〇〇
計	八、六九四、五五〇	三、六五一、〇〇〇	一二一三、〇〇〇

切符及圓銀使用額軍ハ直屬部隊及第三、四、六師團ノ分ニシテ兵站ハ一部缺

二 軍用切符使用ノ狀況

前旬報ノ通但小額軍用券拂底ノ爲メ一般ニ仕拂上甚々窮セリ

三 軍用切符下圓銀トノ交換狀況

兵站金櫃部ノ窓口ニ於ケル本旬間兌換ノ結果左ノ如シ

一 圓 銀 二七〇、〇〇〇

人員 百十三人

軍金櫃部ハ九月三日沙河ヨリ至ヤンヤンイニ同六日遼陽ハ他部ト共ニ轉進

兵站金櫃部ハ大石橋ニ在リ

四 圓銀使用方

軍司令部ニ於テ機密費ニ一、六〇〇圓第四師團ニ於テ三、七三三圓使用セシモノナリ

兵站ノ使用ハ壹圓以下小額軍用券拂底ノ爲メ圓銀ヲ仕拂フノ不得止ニ至リタルモノナ

リ 此趨勢ヲ持續スルトキ軍用券ノ信用上ニハ毫毛關係ナシ圓銀ヲ直接拂フ漸次増加スルノ不得止ニ至ルヘシ且一方ニ少數人連合シテ受領シタル大額軍用券ヲ各人間ニ分割スル上ニ於テ必要ヲ生シ爲メ圓銀ノ兌換額ヲ増加スルニ至ルヘシ頗ル遺憾トスル所

明治三十七年十月十三日付備後第六四三號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付

明治三十七年十月二十二日付滿鐵第六七號ノ一ヲ以テ陸軍省外松經理局長ヨリ御付
九十七

明治三十七年 自九月十一日 第十七回旬報

第二軍經理部

金錢

一 第六師團軍票小券缺乏シ第二軍金櫃部ニテ拾圓券貳千八百圓ヲ小券ト交換セリ通貨
モ亦補助貨缺乏シタルヲ以テ軍金櫃部又ハ他師團金櫃部ト交換移算方交渉中ナリ

二 各地方ニ於ケル軍用券ノ信用ハ倍々厚ク融通極メテ圓滑ニシテ仕拂上毫モ差支ナシ
又各部隊ニ於テ地方調辨ニ屬スル糧食諸品等ヲ購買ニ際シ人民ノ多クハ無筆ナル爲
以テ正當領收證書ヲ得難キ場合多シ不得止仕拂證書ニテ整理シテ付シテ人聞ニ全備
三 進得利寺兵站司令部ニ於テ保管金盜難ニ關スル件調査の結果五日該取調書提出

四 陸軍省外松經理局長ヨリ御付

明治三十七年十一月二日付滿鐵第七二號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ御付

其後 明治三十七年 自九月十一日 第三軍經理部第十九回旬報

二金錢

一 前軍及各師團ニ於テ補助貨及軍票小券ノ不足ヲ感シツ、アリ

二 軍後備步兵第十八聯隊第二大隊ニ於テ營口ヨリ前進途中金櫃一箇紛失セシ旨届出タリ
其金額千參百五拾八圓ヲ目下取調中

三 兵站經理部ニ於テ圓銀交換ヲ爲メ營口ニ同交換所ヲ設置シアリ然ルニ該地ニ支金庫
ヲ開設セザレバ依テ此際之ヲ閉鎖スヘキ時否ヤニ就テ該地ニ於ケル狀況調査中ナ

明治三十七年十一月八日付滿鐵第六七號ノ一ヲ以テ陸軍省外松經理局長ヨリ御付
九十七

明治三十七年十月十八日付陸軍省第六五二號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内 九十八

自明治三十七年九月十一日第二軍々資金使用ニ關スル旬報(第十七回) 第三軍經理部

一 本旬間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通ノ内到達セルモノニ係ル(△印ハ未報)

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	一九七、七四七・〇〇	二七六、六〇〇・〇〇	三七五、〇〇〇・〇〇
兵	五二九、〇七八・〇〇	三三六、六一九・〇〇〇	九五〇、〇〇〇・〇〇
計	七二六、八二五・〇〇	六一二、二一九・〇〇〇	一、三二五、〇〇〇・〇〇

切符及圓銀使用額軍々直屬部隊及第三、四、六師團ノ分以テ詳述ニシテ、直屬部隊ハ本旬自リ左記ノ通り、營口ニ同交對シ、管理部糧餉部^{第三}第四電信隊、砲兵第十三聯隊(總共)騎兵旅團外國武官接待掛^{第六}、軍用切符使用ノ狀況、前旬報ノ通り、軍用切符ト圓銀トノ交換狀況、兵站金櫃部ノ營口ニ於ケル本旬間交換ノ結果左記ノ如シ

一 共圓金銀、三三三、〇〇〇圓、兵三十三日期人員六十八人、軍金櫃部ハ遼陽ニ次リ、兵站金櫃部ハ九月十九日大石橋自遼遼陽來轉進、圓銀使用方面、軍第四師團ニ於テ使用セシモノナリ

項目	金額
軍用切符	一九七、七四七・〇〇
圓銀	二七六、六〇〇・〇〇
合計	四七四、三四七・〇〇

九十九

明治三十七年自九月二十二日第二軍々資金使用ニ關スル旬報(第十八回)

第二軍經理部

一 本旬間軍用切符及圓銀ノ出入左ノ通ノ朱書ハ從來報告未著部隊(△印ハ朱書)

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	一九二八三三〇〇	二六、二八八〇〇〇	八八六〇〇〇
兵	四八九七六一七〇〇	四四四、七〇二〇〇	〇
計	七八四、二七三、六〇〇	四七〇、九九〇、〇〇〇	八八六〇〇〇

軍用切符及圓銀使用額、軍ハ直屬部隊及第三第四第六師團ノ分ナリ

二 軍用切符使用ノ狀況

前旬報之通り

三 軍用切符止圓銀トノ交換狀況

兵站金櫃部以營口ニ於ケル本旬間兌換結果左ノ如シ

圓金銀銀六萬圓三六〇、〇〇〇

兵站金櫃部ノ營口兌換所ハ九月三十日限り閉鎖ス但同所ハ遼東守備軍ノ管轄トナリタ

ルニ依ル

軍金櫃部ノ兌換所ハ九月三十日限り當分閉鎖ス但兵站金櫃部ト同一地ニ在ルニ依ル

軍及兵站金櫃部ハ共ニ遼陽ニ在リ

四 圓銀使用方

軍ハ管理部ニ於テ機密費ニ六〇〇、〇〇〇第四師團ニ於テ二八六、〇〇〇使用セシモ

ノナリ

軍金櫃部ノ兌換所ハ九月三十日限り當分閉鎖ス但兵站金櫃部ト同一地ニ在ルニ依ル

軍及兵站金櫃部ハ共ニ遼陽ニ在リ

圓銀使用方

軍ハ管理部ニ於テ機密費ニ六〇〇、〇〇〇第四師團ニ於テ二八六、〇〇〇使用セシモ

ノナリ

明治三十七年九月二十五日

明治三十七年自十月十一日第二軍軍資金使用ニ關スル旬報(第十九回)

第二軍經理部

一 本旬間軍用切符及圓銀出入左ノ通ノ内到達レモノニ係ル(印ハ朱書)

區分	軍用切符使用額	圓銀交換額	圓銀使用額
軍	一三三三三三三〇〇〇	〇	一〇七二〇〇〇
兵	六三八八三〇六〇〇〇	六〇〇〇〇〇〇	〇
計	八三九八六三四〇〇	六〇〇〇〇〇〇	一〇七二〇〇〇

軍用切符及ヒ圓銀使用額軍直屬部隊及ヒ第三、四、六師團ノ分ナリ

二 直屬部隊本旬計左記ノ通ニ係ル人員十四日迄間金壹千六百九拾八圓ノ計ニ對シ

管理部糧餉部第三、四、六電信隊砲兵第十三聯隊縱列三個共)

騎兵旅團外國武官接待隊戰利白砲隊(軍團調金歸納)軍費壹萬五千圓計發給

三 金軍用切符使用ノ狀況

特記スベキ事項ナシ

第二軍經理部

三 軍用切符下圓銀下交換狀況

今ヤ軍用切符ノ流通ハ頗ル圓滑ナルヲ以テ常時兌換所開設ノ必要ナキヲ認メ軍及兵站
共今後ハ臨機開設セントス

軍金櫃部ハ十月八日遼陽ヨリ太紙房へ同日大荒地へ他部ト共ニ轉進

兵站金櫃部ハ遼陽ニアリ

四 圓銀使用方

軍ハ管理部ニ於テ機密費二、〇六〇〇〇〇第四師團ニ於テ二、四〇〇〇〇〇使用セシモ

本以テ外ハ其餘金高軍票支出高圓銀貸付高圓銀貯蓄

軍上級支隊ヤ中級支隊ニ當テ開設ス

兵站ハ若シハ圓銀ヲ運送シテ兵站ニ運テハ一兩ニハ軍票ノ流通額ニ對

シテ二倍ノ圓銀ヲ運送スルハ兵站軍ニ對シテ圓銀ノ運送額ニ對シテ二倍ノ圓銀ヲ運送スル

前哨書、發異理

一金強軍

第二軍經理部

明治三十七年十一月十日發給



明治三十七年十月十日於遼陽

第三軍兵站經理部

一金櫃事項

前旬報告ノ後異狀ナシ

遼陽ニ於ケル圓銀交換所ハ第四軍ニ於テモ差向キ開設セサルヲ以テ當軍ニ於テ開設スル
トセハ著シク圓銀ヲ吸收セラル、虞アルノミナラス又一面ニハ軍票ノ流通圓滑ニシテ使
用上毫モ支障ナキヲ以テ當分開始セス

本旬ニ於ケル振替送金高軍票支出高圓銀交換高別紙ノ如シ

月	日	振替送金高	軍用切符支出高	圓銀交換高
十月	一日	二二六〇九	一〇〇〇〇	〇
同	二日	三五五〇	一〇七〇〇〇〇	〇
同	三日	三六七四	一五〇〇〇〇	〇
同	四日	二八三〇	三〇〇〇〇〇	〇
同	五日	七四四七	三九五〇〇	〇
同	六日	一五五五	三〇〇〇〇〇	〇
同	七日	八〇六一	一〇〇〇〇〇	〇
同	八日	二〇二四三	一〇〇〇〇〇	〇
同	九日	九一七〇	一五〇〇〇〇	〇
同	十日	五四三二	三三三〇〇〇	〇
計	十日	二八二九四	一〇〇〇〇〇〇	〇

軍八部帳簿ニ依リ對照スルニ十月六日付ノ日付ノ振替送金高ニ於テハ
軍金簿簿ノ年員六日付ノ日付ノ振替送金高ニ同十員ノ差額ハ對照ナキ
其全額ハ對照間違ナシ

軍八部帳簿ニ依リ對照スルニ十月六日付ノ日付ノ振替送金高ニ於テハ
軍金簿簿ノ年員六日付ノ日付ノ振替送金高ニ同十員ノ差額ハ對照ナキ
其全額ハ對照間違ナシ

月	日	振替送金高	軍用切符支出高	圓銀交換高
十月	一日	二二六〇九	一〇〇〇〇	〇
同	二日	三五五〇	一〇七〇〇〇	〇
同	三日	三六七四	一五〇〇〇〇	〇
同	四日	二八三〇	三〇〇〇〇〇	〇
同	五日	七四四七	三九五〇〇	〇
同	六日	一五五五	三〇〇〇〇〇	〇
同	七日	八〇六一	一〇〇〇〇〇	〇
同	八日	二〇二四三	一〇〇〇〇〇	〇
同	九日	九一七〇	一五〇〇〇〇	〇
同	十日	五四三二	三三三〇〇〇	〇
計	十日	二八二九四	一〇〇〇〇〇〇	〇

遼陽ニ於ケル圓銀交換所ハ第四軍ニ於テモ差向キ開設セサルヲ以テ當軍ニ於テ開設スル
トセハ著シク圓銀ヲ吸收セラル、虞アルノミナラス又一面ニハ軍票ノ流通圓滑ニシテ使
用上毫モ支障ナキヲ以テ當分開始セス

本旬ニ於ケル振替送金高軍票支出高圓銀交換高別紙ノ如シ

明治三十八年一月九日

第二軍經理部長 片山 中行

當軍上陸以來軍用手票使用流通ノ狀況ハ頗ル好結果ニシテ使用上毫モ支障ナカリシ處今同
 第四師團經理部長及兵站經理部長ヨリ目下軍用手票信用ニ關シ別紙ノ通り申出 近時作戦
 地域内ニ於テモ流通上民間ニ於ケル軍票ト圓銀ニ多少ツ差アルハ事實ニシテ且物價モ漸次
 昂騰セルヲ認ム之レハ多數ノ軍隊駐屯久シキニ從ヒ需用供給ノ關係上免レサル處ナリト
 雖モ今後軍票ノ信用ヲ低落スルニ於テハ物價ヲ益々騰貴セシムルノミナラス軍ノ行動上至
 難ノ不便ヲ與フルニ至ルヘシ今ヤ之レカ信用維持ノ策ヲ講スルハ最モ急務ナリト信ス依テ
 軍票ノ交換ハ其基礎ヲ確實ニシ占領地内ニ於ケル軍票流通ノ狀況ヲ觀察シテ之レカ信用ヲ
 保持スル程度マデハ無制限ニ交換シ以テ信用ヲ鞏固ナラシムルニ非スハ國家經濟上ニモ
 大ナル利益ヲ來タスニ至ラント思量ス就テハ尙營口及巨港等ノ要地ニ於ケル實際ノ狀
 況ヲ精査セラレ此際適應ノ處置アラシコトヲ希望ス依テ別紙書類相添意見申進候也

明治三十七年十二月二十八日

第二軍兵站經理部長 近 藤 融

軍用手票信用ニ關スル義ニ付意見上申

軍票ノ信用ハ遼陽占領以前最高度ニ達シタルトキニ引換ヘ今日ニ在テハ信用ノ度漸ク低下
 シ之レカ爲メ他ノ一方ニハ遼陽方面ニ於テハ物價騰貴シ少ナカラサル不便ヲ生シ此儘是レ
 ヲ放任スルトキハ將來ニ於テ如何ナル變態ヲ生スルヤモ計ラレス戰地通券タル軍票ニシテ
 信用ヲ失フニ至レハ忽チ軍ノ活動上ニ大ナル影響ヲ與フルノミナラス戰地經濟理ヲ紊亂シ
 終ニ拾收スヘカラサル境涯ニ陥ラン此際威壓ヲ加ヘンカ益々信用ヲ害フヘシ努メテ從來ノ
 方法ヲ以テ自然的ニ軍票ノ信用ヲ維持シ及其信用ヲ最高度ニ致サシムルノ方法ヲ研究スル
 コト刻下ノ急務ナリト信ス

軍票ノ低落ハ種々ノ原因アリト雖モ現實顯ハレタル點ニ於テ今其信用ヲ低落シタル近因ヲ
 一括スレバ概ネ左ノ如シ

甲 遼陽銀行ニ於テ軍票ト兌換券トノ交換ヲ開始シタルコト

乙 交換ノ爲メ軍票ト兌換券トノ間ニ於テ差アルコトヲ支那人ニ殊更知ラシメタル

丙 軍票ト兌換券トノ交換高ニ制限ヲ付シタルコト

丁 警口ニ於テ軍票ト圓銀トノ交換甚々緩徐ナルコト

(甲) 遼陽正金銀行出張所ニ於テ軍票ト兌換券トノ交換ヲ開始シタル爲メ軍票ハ戰地ノ一時通券ナルコトヲ支那人ニ知ラシメ兌換券ト交換セサレハ彌々不安ナルコトヲ豫告シタルモノニシテ取直サズ銀行ハ軍票ニ信用少キコトヲ表白シタルニ等シ此交換ハ日本人ニ必要ナシ支那人ニハ尙必要ナシ全ク無用ノ交換ナリト信ス

(乙) 銀行ニ於テ交換ノ爲メ兌換券ト軍票トノ間ニ於テ十ニ付一ノ差アルコトヲ知ラシメタルヲ以テ軍票ノ信用ヲ懸念スルニ到ル即チ銀行ハ其差ヲ表示シテ自ラ軍票ノ地位ヲ低メタルモノナリ

(丙) 銀行ニ於ケル軍票ハ兌換券トノ交換ハ目下一日一人百圓ヲ限リ且ツ人員ヲモ制限シタル由ナレハ軍票ハ將來益々通用如何ヲ疑ヒ軍票ノ信用ヲ不安ナラシムルニ至ル又遼陽銀行ハ以上ノ不便不信ハ云フ迄モナク且小家庭内ニ僅ニ三人ノ日本人ノミニテ不體裁極マリ到底信用アル日本大銀行出張所ト見エヌ花子銀行即チ乞食銀行トサ

へ罵詈雑言アルモノ不信用ノ一因ナル可シ

(丁) 警口銀行ニ於テ軍票ト圓銀トノ交換モ制限ヲ加ヘ即チ一日一人約參百圓ヲ限リ且ツ交換スベキ人員ニ對シテモ聞取換ノ方法ヲ以テスル由ナレハ從テ交換高少ナク之レガ爲メ信用ヲ薄クスルナリ此交換ハ圓銀ニ限リアレハ致方ナキモ之レカ爲メ軍票ト圓銀トノ間ニ差ヲ附スルニ至ル即チ軍票ノ地位ハ低下シタルモノナリ

以上ノ事實顯然タルヲ以テ民直接ノ弊害ヲ豫防シ及信用ヲ高ムル手段トシテ左ノコトヲ實行セハ效力アラシカト信ス

一 遼陽正金銀行ハ必要ナシ之ヲ廢止スルコト

二 遼陽其他ノ知縣ニ命シテ住民ノ納税ニハ必ス軍票ヲ以テスルコトヲ諭告シ及實行セシムルコト

三 遼陽方面ニ於テ物品買収ニ際シ陸軍部隊ト各個人トニ拘ラス日本人ハ總テ支那人ヨリ鈞錢ヲ取ルトキ支那銀錢ヲ斥ケ必ス軍票ヲ請求スルコト

四 支那兩替店ト各個人トニ論テ軍票ト圓銀若シハ支那銀トノ間ニ差ヲ附シ交換スルモノアルトキハ處罰スルコトヲ告諭フ爲シ及監視スルコト



(一) 五 戰地ニ於ケル軍人軍屬ノ俸給諸給ハ總テ軍票ヲ以テスルコト
 遼陽銀行ハ(甲)三陳々タル如ク戰地ニ三種ノ通券ヲ顯ハシタル爲メニ軍票ハ自然其勢力
 ヲ減殺セラル、ガ故ニ軍票ノ信用ヲ維持スルニハ暫ク此銀行ノ開業ヲ閉鎖スルヲ得策
 トス

(二) 雜部保管ノ如キハ目下必要ナシ銀行ノ保管トナセハ監視不充分ナルヲ以テ却テ危險多
 カラン

(三) 遼陽海城等ノ知縣ニ命シテ住民ノ納税ニハ必ス軍票ヲ以テスルコトヲ諭告シ及之ヲ實
 行セシムルトキハ支那人ヲシテ軍票ノ信用ヲ高ムルヲ得ヘシ從テ民間商業交通上ニモ
 圓滿ナル融通ヲ爲シ直接間接ニ軍票ノ地位ヲ不安ノ中ヨリ去ルコトヲ得ヘシ故ニ是非
 トモ軍政委員ヲシテ履行ヲ試ミタシ

(四) 遼陽方面ニ於テ陸軍部隊ト軍人及軍屬以外トニ拘ラス物品買收ノ際鈞錢ヲ取ルトキ支
 那銀錢ヲ出セハ之ヲ擯斥シ軍票ヲ求ムルコトニ注意スルヲ要ス然ルトキハ支那人ハ之
 一カ爲メニ不便ヲ生スルヲ以テ自然軍票ヲ信用シ何レモ必ス多少所有スルニ至ルヘシ此
 事タル甚タ小ナリト雖トモ廣キ範圍ニ於テ行フトキハ軍票ノ信用ヲ維持スル一方便ト

(一) シテ必ス裨益アルモノト信ス

(二) 支那ノ兩替店若クハ各個人間ニ於テ軍票ト圓銀若クハ支那銀錢ニ差ヲ附シ交換ヲナス
 モノアリト聞ク之カ爲メ軍票ノ信用ニ關係スルコト大ナルヲ以テ右等ノ惡交換ヲナス
 モノアルトキハ之ヲ嚴重ニ處罰スルコトヲ豫告シ及監視スルトキハ軍票ノ信用ニ關シ
 必ス利益アルモノト思惟セラル

(三) 戰地ニ在ル軍人軍屬ノ人體給與ニ屬スル俸給諸給ハ總テ軍票ヲ以テ仕拂フコトニ改ム
 ルヲ要ス然ルトキハ戰地ニ在テ通券ハ單一ノ軍票トナリ從テ軍票ノ信用ヲ支那人ニ滲
 透セシムルコト益、堅固トナリ自然軍票ノ交通圓滑且ツ信用モ亦之ヲ高ムルコトヲ得
 ヘシ

(四) 茲ニ一ノ疑問ハ俸給諸給ヲ軍票ヲ以テ仕拂フトキハ其差ハ如何ニスルヤト云フコト之
 レナリ此處置ハ軍票モ兌換券ト同價格ヲ以テ戰地ニ限り使用セシメ軍票ヲ内地へ持歸
 リタルトキハ戰地派遣ノ軍人軍屬ニ限り兌換券ト差額ヲ立スシテ交換スレハ可ナリ若
 シ戰地ニ於テ差増ヲナシ仕拂フトキハ會計經理ニ著シキ不便ト面倒トヲ生スルニ至ル
 ヘキヲ以テ之ヲ避ケサルヘカラス



百十八
フカ何レカノ一ヲ採ラサレハ他ニ信用維持ノ方法手段ナキカ如シ實ニ軍票信用如何ハ戰地
經濟ヲ紊亂スルコト甚シキヲ以テ二日モ速カニ良好且實際ニ最モ適切ナル處置ヲ爲サシコ
ト急務中ノ最急務ナリト信ス再ヒ意見及追進候也

明治三十八年五月二十日付滿鐵第二五三號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

第三十八回報告 自三月三十一日 至同三十一日

第二軍經理部

金錢事項

一時信用ノ幾分ヲ失墜シタル軍用手票モ頃日漸次ニ其額勢ヲ挽回シ好況ヲ呈シツ、アリ
本旬間當軍兵站諸部隊ニ於テ軍票ヲ使用セシ額五拾五萬餘圓ニ上リシモ圓銀ト交換セシ
ハ此内僅ニ壹萬圓ニ過キスシテ使用上ニ支障ナカリシ此形勢ヲ以テスレハ將來多大ノ圓
銀交換ヲ行ハスシテ敢テ流通ヲ妨グルコトナカラシ

明治三十八年七月第三旬經理報告

第二軍經理部

會計經理一般ノ狀況

一金錢事項

土人ハ軍票ノ古ク汚レタルモノヲ厭忌シ交付ノ際新シク汚レサルモノト交換ヲ願出ツルモノ多キニ近來金庫派出所ヨリ交付セラル、手票ノ大部分ハ古票ニシテ其括束中ニハ甚シク汚レ若クハ裂ケタルモノアリ(拾圓券及五圓券ニ最モ多シ)殆ント使用ニ堪ヘサルモノ、混入スルヲ往々發見セリ金櫃部ハ分任官又ハ債主ニ交付スルニ方リ一々點檢スルノ暇ナク其多クハ結束ノ儘授受セリ然ルニ他日分割ノ際汚損甚シキモノヲ發見センカ受領者ノ迷惑少カラサルヲ以テ斯ル汚損甚シク使用ノ命數短キモノハ成ルヘク結束ノ際取除カレンコトヲ望ム

第三軍經理報告拔萃 於北泡子崖 六月

軍用切符流通ノ景況ニ於テ、當地方ニ於テ軍用切符ハ當今大ニ土人間ニ信用ヲ博シ携帶貯蓄ニ便ナルカ故硬貨ヨリモ却テ歡迎セラレ牛車ノ雇賃物品ノ賣買等ニ差支ナク使用セラル又通貨ト軍用切符トノ間ニ差額ナク流通セルハ最モ喜ブヘキ現象ナリト云然レトモ土人ニシテ該切符ノ眞價ヲ知りタルノ曉ハ通貨同額ニ流通スルコト能ハサルニ至ラン聞ク所ニ依レハ朝鮮地方ニ在リテハ兩者ノ間ニ規定ノ差額ヲ以テ流通シテ、若シ當地方以テ土人ニシテ此事ヲ傳聞セバ、二層流通ノ困難ヲ見ルニ至ラジト云

Table with multiple columns and rows, containing detailed financial and administrative data. The text is very faint and difficult to read, but it appears to be a ledger or report table.

明治三十七年七月十三日付滿鐵發第四四號ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付

百二十四

第三軍經理報告拔萃第三號 六月二十三日 於北泡子崖

一 本旬開當軍金櫃部金櫃ノ收支左ノ如シ

名	前旬持越高	本旬受入高	本旬支出高	差引現在高
通貨	八九二四六五二四	九四三一九〇	〇五〇	九〇一八九六六四
軍用切符	一一〇、〇〇〇〇〇	〇	四、〇六三八〇〇	一〇五九三六二〇〇
圓銀	〇	〇	〇	〇

本旬受入高ハ十七日以後野戰郵便局ヨリ振替送金トシテ受領セシモノナリ

二 本旬於テ五月分決算書類臨時陸軍中央金櫃部へ送付セリ其證明額左ノ如シ但金種ハ

總テ通貨ニシテ内地拂ニ屬スル分ナリ

人件費金四千七百七拾圓貳拾八錢八厘

五月分精算高 物件費金七千九百拾壹圓七拾貳錢壹厘

合ハ計金壹萬貳千六百八拾貳圓九厘

軍用切符ハ前旬ト同シク當地方ニ於テ益良好ノ狀況ヲ以テ流通シツ、アリ

明治三十七年八月五日付滿鐵發第五二二號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

三十七年七月三日

第三軍報告

軍用手票ノ信用依然深厚ニシテ今日ニ至ル迄未タ一切交換ヲ請求シ來ラス且各部隊ヨリ軍用手票ノ移算受付請求スルモノ又ハ圓銀及通貨ト軍用手票トノ交換ヲ請求スルモノ多シ隨テ當金櫃部ニハ圓銀堆積シテ軍用手票ハ大ニ缺乏シアリ

百三十五

第三軍經理部(第五號) 七月四日
於北泡子崖

一金錢

本旬間軍金櫃部金櫃ノ收支左ノ如シ

名	前旬持越高	本旬受入高	同支出高	差引現在高
通貨	九〇、八九六六四	六四九〇三〇	八四四〇〇四三	八八二九九三一
軍用切符	一〇五九三六二〇〇	五二七〇〇	三〇、七四五〇〇	七五、九一四四〇〇
圓銀	〇	〇	〇	〇

本旬受入高ノ内五千四百九拾圓參拾壹錢及軍用切符受入高ハ野戰郵便局ヨリ振替送金トシテ受領セシ分ナリ

通貨本旬受入高及軍用切符支出高中各千圓ハ「ダルニ」港務部内地出發ノ際通貨ノミ携行シ部務開始ニ際シ購買品等代價ヲ通貨ニテ仕拂ハントセシニ却テ之ヲ拒ミ仕拂上困難ナルゴトヲ同部ヨリ照會シ來リタルヲ交換セシ分ナリ

明治三十七年自七月十日軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況並ニ圓銀使用ノ程度

第三軍經理部

一 軍用切符ノ使用、五萬八千八百五拾參圓貳拾錢

流通倍好況ヲ呈シ清人間ニ於ケル本邦兌換紙幣ハ軍用切符ノ下位ニ在リ

一 軍用切符ノ交換 毎日軍用切符ノ交換ヲ爲セシカ之カ爲メ事務ノ滯滞ヲ來ス恐アルヲ以テ本週ハ一六ノ兩日ニ於テ交換ヲ爲セシモ各人ノ交換ニ就テハ制限ヲ爲サス其目的ヲ達スルコトニ勉メタリ其交換額及人員左ノ如シ

前旬持越高	本旬受入高	同支出高	差引現在高
七月十日	一六九六六〇〇〇	一六九六六〇〇〇	〇
同 十六日	一六九六六〇〇〇	一六九六六〇〇〇	〇
計	三〇、五三六〇〇〇	三〇、五三六〇〇〇	〇

一 圓銀使用ノ程度 交換以外ニハ使用セス

明治三十七年七月十日

明治三十七年七月二十五日付滿鐵第五〇三號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

百二十八

野戰經理
長官部 經受第三二二一號

電報 七月二十三日 午前三時五十分發
午後三時十五分著

於第二軍 兵站經理部長

經理長 官宛

戰地ニテ各種金貨ハ勿論同一ニ使用シアルモ商人ノ言ニ依レハ芝罘威海衛以南ニ在ツテ各種銀貨ニ相場アリ舊墨銀ヲ壹圓ト假定スレハ日本銀ハ九拾七八錢新墨銀ハ九拾五錢ノ比ナリト今交換シツアルモノハ新墨銀ナレハ民人之ヲ望マヌ傾キアリ日本銀貨ハ雁造ナシトテ嬉フノ風アリ御參考迄

第一軍經理部長
第二軍經理部長

明治三十七年八月二十七日付滿鐵第五七七號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付
明治三十七年七月二十四日於北泡子崖

第三軍經理部

本旬間金櫃部金櫃ノ收支左ノ如シ

區分	前旬持越高	本旬受入高	同支出高	差引現在高
通貨	八八七八三三二	七三三七三〇	三二五〇五〇	八九三二七〇一
軍用切符	二〇二五六九〇〇	五〇〇八八六〇〇	三二五〇四七〇〇	三八八四〇八〇〇
圖				

- 一 本旬間ニ於テ野戰郵便局ヨリ振替送金トシテ通貨七百七拾參圓七拾錢ヲ受領スニ要ス
- 一 鐵道提理部分任官ヨリ仕拂殘高返納分トシテ六軍用切符八拾八圓六拾錢通貨參錢ヲ受領ス
- 一 三十七年七月分前渡金ノ内トシテ軍用切符五萬圓ヲ受領ス
- 一 軍用切符壹萬圓ヲ第十師團金櫃部ニ移算セリ其間與與ノ差額ハ要領ス
- 一 以上第六項第九項三至ル金額ハ第五項受拂ノ各相當區畫ニ金額中ニ含有ス

百二十九

甚多カラス從價少シ報酬微ゼラル、モ交換シ爲メ業務ヲ休止スルニ不利ナリ比シ反テ得策ナラフ以テ已ニ去ヲ得ルカ如ク、
 清國人及日本圓銀ヨリ墨西哥圓銀ヲ好ミ買ト甚ク目下交換中シ圓銀以墨西哥製ナルヲ以テ之ヲ取得セシガ爲メ多額ノ交換ヲ請求スルモ、
 前述交換ノ結果トシテ當所及當地附近於テ軍用手票ハ俄カニ其信用ノ程度ヲ高メ當監督カ當地來著ノ當時ヨリ交換開始迄ハ軍用手票ト兌換券ト其信用ニ於テ殆テ差異ナカシ、
 是目下本邦兌換券ハ軍用手票ニ比シテ之ヲ厭忌スルニ至リ、
 第三軍兵營總務部
 軍用手票ノ取扱
 第三軍兵營總務部
 軍用手票ノ取扱

圓銀交換金額及人員表

交換月日	區分	交換金額	人員
七月五日		二六六三〇〇〇	四
同 六日		三四四九〇〇〇	五
同 七日		三三三三〇〇〇	五
同 八日		六〇四六〇〇〇	一三
計		一四八八八〇〇〇	二七

第三軍兵營總務部
 軍用手票ノ取扱
 第三軍兵營總務部
 軍用手票ノ取扱



明治三十七年九月五日付滿鐵第五九八號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

百三十四

明治三十七年七月十六日於泡子崖

第三軍經理部

金錢事項

一 本旬間金櫃部金櫃ノ收支左ノ如シ

名	前旬持越高	本旬受入高	同支出高	差引現在高
通貨	八八二九九三一	六三八四〇〇	〇	八八八七八三一
軍用切符	七五九一四四〇〇	〇	五五、六五七、五〇〇	二〇、二五六、九〇〇
圓銀	〇	〇	〇	〇

通貨本旬受入高ハ野戰郵便局ヨリ振替送金ニ係ル分ナリ

軍用切符支出高ノ内四萬圓ハ第三軍兵站金櫃部分任現金前渡官吏へ移算拂ノ分ナリ

二 軍用切符ハ野戰地境ニ於テハ未タ交換ヲ爲スノ必要ヲ認メス兵站主地ニ於テハ七月四日ヨリ交換ヲ開始セシカ其景況ハ別紙(第三軍兵站經理部)第八七號週報ニ詳ナリ

附録 交換 支 出 入 員 表

明治三十七年九月四日付滿鐵第五九六號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

明治三十七年 自七月十七日軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況並ニ圓銀使用程度

第三軍經理部

一 軍用切符ノ使用高ハ六萬參千貳拾八圓四拾錢ニ達スル中、野戰郵便局ヨリ振替送金ニ係ル分ハ、

二 軍用切符交換ノ狀況 其信用ヲ保持スルニ止マラス軍用切符ノ送付少キニヨリ其回收

ヲ計リタル爲メ交換額ハ巨額ニ達シ實ニ拾壹萬五千九百貳拾七圓ニ上レリ交換開始ノ

當時ニ在テハ一人ニシテ數千圓ノ交換ヲ請求スルモノ多カリシモ漸次其數ヲ減シ千圓

以上ノ請求ヲ爲スモノ少キニ至レリ蓋シ交換施行ノ結果トシテ民間ニ於ケル貯藏券ノ

三 減少セルト何時ニテモ再交換シ得ルルノ信頼心高マリシ結果ナラシ

三 圓銀ノ使用高ハ交換ノ外使用セス

金錢事項

附録 交換 支 出 入 員 表

百三十五

0077

明治三十七年八月十日於双臺溝

第三軍經理部

百三十六

金錢事項

- 一 軍用切符ノ交換ハ目下兵站金櫃部ノミニテ施行シツ、アルカ其引換高ハ日々七八千圓ナリ而シテ内地ヨリ前渡金ノ送付遅延スル爲メ僅カニ此交換セルモノヲ以テ仕拂
- ニ 本旬間軍金櫃部金櫃ノ收支左ノ如シ

名	前旬持越高	本旬受入高	同支出高	差引現在高
通貨	八九三三〇・一	一〇、六七八・〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	七九三九四・八一
軍用切符	三八八四〇・八〇〇	四〇、七五〇・〇〇	二七、〇〇五・五〇〇	五、九八四・三〇〇
圓銀	〇	〇	〇	〇

本旬間振換送金トシテ通貨千六百七圓八拾六錢軍用切符七拾五圓ヲ野戰郵便局ヨリ受領ス

兵站金櫃部ヨリ軍用切符四萬圓ヲ移算受領ス

第一師團野戰病院出納官吏へ軍用切符五千圓移算拂ヲ爲セリ

三 本旬間第一師團金櫃部金櫃ノ收支左ノ如シ

名	前旬持越高	本旬受入高	同支拂高	差引現在高
通貨	二九二四五・三六二八	五九四五・六一〇	二〇、三二九・三五〇	二七八〇・六八八
軍用切符	八五、三六六・〇〇	〇	一、九三二・一〇〇	七三、三三三・五〇〇
計	三七七六九・三二八	五九四五・六一〇	三二、二六一・四五〇	三五、一三八・三八八

受入高通貨五千九百四拾五圓六拾壹錢ハ野戰郵便局振替金ニシテ仕拂高ハ現金前渡及實費拂ナリ

四 第九第十一師團、兵站經理部ニ於ケル金櫃收支ノ景況ハ未タ報告ナシ

五 毎月分ノ前渡金到着遅延スルヲ以テ各部隊間ニ移算拂ノ請求頻繁ナリ

第三軍經理部

百三十七

明治三十七年 自八月十四日 至同 二十日 軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況並ニ圓銀使用ノ程度

第三軍經理部

一 軍用切符ノ使用

軍用切符使用額ハ參萬參千五百參拾四圓四拾錢ニシテ流通ハ依然圓滑ナリ然レトモ戰鬪劇烈ノ結果報告未著多シ

二 軍用切符交換ノ狀況

軍用切符交換高ハ四萬九千五百六拾圓ナリ目下交換高増加セシハ軍需品購買力ノ増進ニ伴ヒ其供給ハ多ク芝罘威海衛等ヨリ輸入スルカ故ニ自然仕入等ニ硬貨ヲ要セシニ起因スルナラン

三 圓銀使用ノ程度

圓銀ハ使用更ニナシ

明治三十七年 自八月二十一日 至同 二十七日 軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況並ニ圓銀使用ノ程度

第三軍經理部

一本週中ニ於ケル軍用切符ノ使用額ハ七萬參千五百參拾五圓貳拾錢ニシテ前週ニ比シ著大ノ増加ヲ呈セリ之レ前週報告未著ノ分ヲ併算セントハ多少勞銀及物價騰貴ニ依ルヘシト雖モ主タル原因ハ軍ノ活動ノ爲メ軍需品ノ購買及傷病者ノ運搬費等増加セシ結果ナラ

一本週中軍用切符ノ交換高ハ四萬千參百參拾參圓ニシテ稍減セリ交換人員ハ七十三名ナ

一 圓銀ノ使用ハ依然ナシ

明治三十七年 自八月二十八日軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況竝ニ圓銀使用ノ程度

第三軍經理部

一本週中ニ於ケル軍用切符ノ使用額ハ七萬六千六百拾圓貳拾錢ニシテ前週ニ比シテ稍増加
 一軍用切符交換高ハ參萬九千八百貳拾七圓ニシテ前週ニ比シテ千五百六圓ヲ減セシモ之レ一
 時ノ現象ニシテ其交換ヲ求ムルモノニ就テハ依然タリ其人員ハ三十六名ナリ
 一圓銀ハ依然使用セス

第三軍經理部

明治三十七年 自九月四日軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況竝ニ圓銀使用程度

明治三十七年十月十一日付滿鐵第六四三號ノ一ヲ以テ陸軍省外務經理局長ヨリ廻付ノ内

明治三十七年 自九月四日軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況竝ニ圓銀使用程度

第三軍經理部

軍用切符ノ使用

一本週中ニ於ケル軍用切符ノ使用額ハ拾參萬六千七百參拾九圓九拾錢ニシテ毎週漸次増加
 一軍用切符交換高ハ五萬貳千參百圓ニシテ前週ニ比シテ壹萬貳千四百七拾參圓ヲ増加ス此
 一主テ原因ハ壹圓以下ノ手票拂底ヲ告ケタルニ付之カ回收ヲ勉メシニ依ル人員四十七名
 一圓銀使用ノ程度
 一圓銀六使用セス

第三軍經理部

明治三十七年 自九月十一日軍用切符ノ使用及其交換ノ狀況竝ニ圓銀使用ノ程度

第三軍經理部

- 一 軍用切符ノ使用
本週ニ於ケル軍用手票ノ使用額ハ拾萬九百參拾九圓九拾錢ニシテ前週ニ比シ増加セシハ依然購買力退減セサル結果ナリ
- 一 軍用切符ノ交換ノ狀況
軍用手票ノ交換ハ其流通高逐次増加セシヲ以テ本週ニ於ケル交換高ハ七萬四千貳百五拾七圓ナリ其人員ハ六十六名ナリ
- 一 圓銀使用ノ程度
一 圓銀ノ支出ナシ

明治三十七年十月二日付滿鐵第六五九號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内 百四十二

第三軍經理部

一 軍用切符ノ使用
本週ニ於ケル軍用手票ノ使用額ハ九萬貳千參百參拾八圓參拾錢ニシテ前週ニ比シ稍減少セリ

一 軍用切符交換ノ狀況
軍用手票ノ交換ハ其流通高逐次増加シ本週ニ於ケル交換高拾貳萬八千九百九拾參圓人員百十六名ナリ是青泥窪ノ交通上ノ關係ヨリ他軍地方ヨリ來リ交換ヲ請フモノアルニ依ル

一 圓銀使用ノ程度
一 圓銀ノ支出ナシ

明治三十七年十月二日付滿鐵第六五九號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内 百四十二

第三軍經理部



明治三十七年自九月二十二日經理報告

十月十日 第三軍經理部
於柳樹房

金錢事項

本旬間野戰郵便局爲替振替ノ作用ニ依リ當軍兵站金櫃部ニ收納セル金額左ノ如シ

一 貯蓄金七萬千六百拾八圓五拾九錢七厘

二 軍用切符通用券ノ貸出 六萬五千八百貳拾九圓五拾九錢七厘

右收入額ヲ前旬ニ比スレハ參萬九千餘圓ノ增收ナリ蓋シ文武官ノ俸給支拂ノ旬ニ當リタル以テナラシキ事也

青泥窪金庫派出所ニ於テハ軍用手票ト通貨ト交互交換ヲ爲セトモ圓銀ト軍用手票トノ交換ヲ爲サルヲ以テ其交換ハ當軍兵站金櫃部ニ於テ爲サシメツ、ア然レ上モ金庫ノ派出所モ設置セラレタル今日ナレハ同所ニ於テモ此交換ヲ實行セラル、様ナランコトヲ望ム即チ圓銀及軍用切符取扱手續第十三條左ノ金庫中へ此金融機關ヲ追加ヘシテ望ム事ナリ

軍用切符交換以狀況

軍用切符交換以狀況

一 軍用手票然信用厚ク依然圓滿ニ流通シ本週間ニ於テ交換高拾壹萬九千七百四拾圓ニシテ前週ヨリ減少スルコト八千四百五拾參圓ナリ此ニ蓋シ遼陽方面ニ交通機關ノ全通シタル爲メ第三軍兵站管區内方面ヨリ來リ交換ヲ請フモノ増加セシニ依ルナラン

軍用切符ノ使用

二 本週間ニ於ケル軍用手票ノ使用額未報告ノ分ヲ除キ八千四百四拾貳圓七拾錢トス

三 圓銀ヲ以テ仕拂ニ供セス

圓銀ノ使用

圓銀ノ使用

四 第三十三師十月二十五日公報掲載

四 第三十三師十月二十五日公報掲載

百四十五



明治三十七年 自十月十六日 至同 二十二日 軍用切符使用交換狀況及圓銀使用程度報告

第三軍經理部

- 一 軍用切符ハ依然信用厚ク圓滿ニ流通セリ
- 二 本週間ニ於ケル圓銀トノ交換額ハ六萬參千七百六拾圓ニシテ其交換請求人員ハ六拾七人ナリ而シテ前週ニ比スレハ八千五百貳拾圓ヲ増加セリ其交換程度ハ前週來ノ方針ヲ保持スルニ止メ居レリ
- 三 圓銀ヲ以テ仕拂ニ使用セシコトナシ

明治三十七年 自十月三十一日 經理報告

十一月九日 第三軍經理部 於柳樹房

一 金錢事項

本旬間兵站金櫃部ニ於ケル圓銀ノ交換高ハ九萬四百圓ニシテ前旬ニ比シ六千四百圓ヲ増加セリ

「ダルニー」兵站司令部ニ於テハ毎月約貳拾萬圓ノ支拂ヲナスニモ拘ハラズ從來主計ノ配屬ナキヲ以テ兵站經理部長ハ同部員ヲ派シ經理上ノ事務ニ當ラシム

當軍下ニ於ケル圓銀交換場所ハ兵站經理部ノ外他ニ之ヲ設ケス蓋シ一般土人以軍用手票ヲ對スル信用ハ益々厚ク彼等以為ラシク若シ銀貨ヲ要セシカ何時ニテモ「ダルニー」ニ到ル之ヲ得ラルベシト此信念アルガ故ニ所在流通圓滿ニシテ數箇所ニ交換所ヲ設ケルニ必要ヲ認メサレハナリ只近來攻圍線ニ接近セル地方ニ在リテハ土人酒保ヲ營ム者ノアリ兵卒等ハ通貨ヲ以テ彼等ニ就キ購買ヲ爲スカ故ニ自ラ彼等ヲシテ手票ト通貨トニ對シ價值ノ比較ヲ爲サシムルノ機會ヲ與フルニ至リ左ナキタニ射利ニ於テ鋭敏ナル彼等ノ頭腦ハ爰ニ通貨ヲ欲スルノ念ヲ生シ試ニ二者之ヲ示準ハ必ス通貨ヲ擇フノ現況ナ

百五十二

リ之ヲ除去センハ海外ニ在テハ一般ニ軍用手票ソミヲ用ヒ定額供給ソモソニ對シテ
 最も計算シ易キ標準額(現今ノ標準額)ニ依リ部増シヲ定メ交付スルヨトハセハ容易ニ彼
 等ノ撰擇ヲ排除シ得ベシト信ス
 前方ニ於テ本職ノ所見斯ク如キナリ然レトモ後方タルニ在テハ土人ノ事情ニ
 近接セル兵站經理部長ヨリ圓銀交換ニ對スル意見トシテ報告シタルモノアリコハ直接
 三貴官ヘ呈出シアル管ナルニ付路ス但シタルニ金州ハ略同ノ狀況ニアルモ政
 團線ニ接スル地方ハ之ニ異ル處アリ之ニ本職ノ所見ニ於テ前方ニハ特ニ交換所ヲ設
 クルヲ要セズト言フ所以アリハ同前員ニ請フ
 十一月十九日 第三軍經理部

百五十三

明治三十七年自十一月十日經理報告(第十八號)

十一月十九日 第三軍經理部
 於 柳 樹 房

金錢事項

本旬ニ於テ圓銀交換高ハ拾壹萬六千貳百圓ニシテ前旬ニ比シ貳萬五千八百圓ヲ增加セ
 リ
 兵站金櫃部ニ於ケル本年七月以來圓銀交換ノ景況ハ前旬報告ノ如キモ之ヲ密接ノ關係ヲ
 有スル芝罘ニ於ケル軍用手票價格ノ一覽表(附表第十二號)ヲ得タレハ參考ニ供ス但シ該
 表中十月ニ於テ額ニ下落ヲ來シタルハ同部ニ於テ圓銀交換高ニ制限ヲ加ヘ二旬二回ニ改
 メタルニ依ルナラン

自明治三十七年七月第三軍兵站金櫃部圓銀交換實施表

月次	交換開始時間	交換開始日	現日數	交換高	現日數對一日平均高	制限區分
七月	自午後一時至午後六時	十七日	三十一日	一七,三三〇〇〇	五五,五四五	交換日ヲ定メ金額ニ制限ヲ加ヘス
八月	同上	十二日	十四日	二八,九〇〇〇〇	九,九〇〇〇〇	交換日及金額ニ制限ヲ加ヘス
八月	同上	十八日	十七日	一一,九〇〇〇〇	六,五八八〇〇	交換日ヲ隔日ニ金額ヲ制限セシメ
九月	自午後九時至午後五時	十五日	三十日	五九,三三〇〇〇	一三,〇〇〇〇〇	交換日ヲ隔日ニ金額ヲ制限セシメ
十月	同上	十六日	二十日	五九,〇〇〇〇〇	五,九〇〇〇〇	交換日ヲ隔日ニ金額ヲ制限セシメ
十月	同上	二十三日	二十九日	三九,〇〇〇〇〇	六,七二五	交換日ヲ隔日ニ金額ヲ制限セシメ

芝罘ニ於テ軍票相場表 六月 九一四三 九月 九三〇〇
 芝罘ニ於テ軍票相場表 七月 九四三〇 八月 九五七〇
 芝罘ニ於テ軍票相場表 八月 九五七〇 九月 九三〇〇
 芝罘ニ於テ軍票相場表 九月 九三〇〇 十月 九〇〇〇

明治三十七年十一月十三日付滿鐵第七三號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付

明治三十七年自十月二十三日至十月二十九日軍用切符使用交換狀況及圓銀使用程度報告

- 第三軍經理部
- 一 軍用切符ハ依然信用厚ク圓滿ニ流通セリ
 - 二 本週間ニ於ケル圓銀トノ交換額ハ五萬五千四百圓ニシテ其交換請求人員ハ五十六人ナリ而シテ前週ニ比ズレハ八千六百六拾圓ヲ減少セリ其交換程度ハ前週來ノ方針ヲ保持スルニ止メ居レ
 - 三 圓銀ヲ以テ仕拂ニ使用セシコトナシ



第三 或制限ヲ加ヘテ交換ヲナス事

第三 第三ニ餘リ直接交換ヲナサズシテ其希望者ニ満足ヲ與フル事
右三法中ノ第三ハ到底望ム能ハス否ナクセンヨリハ寧ロ圓銀ヲ直接ニ使用スルニ勝レル
ニ如カサル事也其結局軍票發行ノ趣旨ニ戻ルヲ以テナリ又第三ニ目下執リツアル方法
ナルモ此方法ニテハ或程度以上ハ軍票ノ信用ヲ維持スルニ足ラサルハシ獨リ第三法ヲ行ヒ
得ハ其信用ヲ維持スル點ニ於テ大ナル効力アルモノト認メラル
然ラハ第三法ハ如何ニシテ實施スヘキカ他ナシ小口交換ハ直接圓銀ヲ以テシ大口(先ツ千
圓以上トモ)可テラシテ所ナシハ爲替作用ニ依リ間接ニナスニテアリ
當地ニ於テ交換スル圓銀ハ大部分芝罘ヲ經テ上海若クハ香港ニ現送セラル其所以他ナシ
芝罘ハ當地方ノ所要物價ノ唯ニ供給地ナレトモ芝罘自身ハ其實取次地ニ過キシテ實際
貨物貨仕入地ハ上海若クハ香港地方ナルヲ以テナリ(此景況ハ密カニ芝罘ヲ調査シタル結
果ナリトモ單純ニ之ヲ調査ナリシヨリ以テ綿密ニ再調査ヲ要ス)而シテ當地方ヨリ海外即チ
芝罘ヲ經テ上海香港等ニ現送セラル、圓銀ハ毎月貳參拾萬圓ニ下ラサルヘシ(旅順陥落後
ハ尙増加スヘキハ勿論ナリトス)斯ク該地方ニ現送セラル圓銀ノ代リニ上海若クハ香港

宛ノ爲替ヲ渡サハ彼等甘シク受テ之ヲ受テヘシ斯クノ如クセハ當方面ニ於テ交換スヘキ圓銀
ノ大部分ハ爲替作用ニ依リテ其希望ヲ満足シ交換者(官)被交換者共其現送ヨリ生ズル幾多
ノ危險ト失費ヲ免ルニ得ヘシ然ルニ爰ニ尙一問題アリ他ナシ以上ノ如ク間接交換ヲナス
モ上海若クハ香港宛當地ヨリ振出シタル爲替ハ結局如何ニ處置スヘキヤト云問題はレナリ
此問題ニ對シテハ左ノ三答アリ曰クマ...

一 日本内地ト上海香港等ノ貿易ニ依リテ相殺スル事
二 上海若クハ香港ニ於テ資銀ヲ準備シ爲替ノ引換ヲナス事
是ナリ右第一ハ日本ニ爲メ貿易ノ順潮ナル場合ニ於テ行ハル蓋シ滿點ノ場合ナリ然レトモ
本官ハ日本カ該所ニ對スル貿易ノ景況ヲ調査スル材料ヲキテ以テ之ヲ斷言シ得ザルモ免ニ
角滿點アル場合ハ輸出入ノ關係ニ依リ常ニ望ム可ラサルヲ至當ト考フ是ニ於テカ第三以方
法ヲ講セサル可ラス而シテ目下交換ヲ爲シツルアル資銀ハ諸外國ヨリ日本ニ輸入シタルモ
ソナルヘシト雖モ上海香港モ亦其輸出地ニナルヘシト考テ然ラバ右兩地以方
ヨリ遙々日本内地ニ圓銀ヲ輸入シ更ニ之ヲ當地方ニ轉送スル爲メ生ズル幾多ノ危險ト失
費ト手數ヲ省略シ寧ロ上海香港ニ於テ資銀ヲ準備シ直ニ同地ニ於テ爲替交換ニ充テ如上ノ

利益ヲ享受スルノ勝レルニ如ガサルナリ。然レテ、同様に、其ノ利益ヲ享受スルニ、以上ノ理由ニ依リ、正金銀行當地派出所ヲシテ、小口圓銀交換及爲替振出ノコトヲ當テシメ、一ハ以テ軍用手票ノ信用ヲ比較的完全ニ維持シ、一ハ幾多ノ危険ト失費ヲ省略スル事ヲ得ベシト考ヘラル以上ハ、單ニ上海香港ニ對スルニ例ニ過キ、其他天津ノ如キハ日本トノ貿易關係上銀貨ヲ輸出スル地方ヲ對テ、然ラバ此地方ニ對シテモ亦爲替作用ヲ利用シ得ベキ場合アルベシト思ハル然レドモ上來ノ所説ハ調査材料甚タ乏シカリシヲ以テ其當ヲ得タルヤ否ヤハ之ヲ試ムルニ由ナシ故ニ只參考トシテ單見ヲ具申スルニ過キ、若シ夫レ之ヲ實行セシトセハ更ニ綿密ナル調査ヲ要ス可キハ勿論ナリトス。

(本稿ヲ草シ終リタルトキ横濱正金銀行三崎龜之助氏恰モ官命ヲ帶ヒ(軍用手票ノ信用)ニ關スル調査)ニ關シテ、其ノ當地ニ來リ本官ニ面會ヲ求メラル、ニ會シ以上ノ意見ノ概略ヲ同氏ニ告ケタルニ同氏モ略ホ同意見ナリトシ、事ナリキ(其ノ詳ハ他處ニ記ス)トシ、其ノ後、以上ノ單ニ青泥窪ノ實況ヨリ立論シタルヲ以テ金州營口等交換所ナキ地ニ於テハ多少其趣ヲ異ニスルモ、其ノ大體ハ信ス金州ニ於テハ圓銀下軍票トシテ間ニ約三割ノ差アリト聞ク。顧フニ此ニ割リ差ナルモリハ支那人中該地ニ於テ密ニ交換スルモノ、其ノ運搬費冒險料手數料ト

ナリ其丈ケ物價ヲ騰貴セシムルモノナルヘシ今試ミニ其冒險料手數料ヲ一割トシテ計算セハ左ノ如シ

圓銀壹萬圓(牛車ニ臺ノ積載量)ヲ青泥窪ヨリ金州ニ至ル運賃銀八圓ニシテ壹萬圓ノ一割即チ銀千圓ヨリ此八圓ヲ控除スレハ九百九拾貳圓ハ冒險料手數料トナル

尤モ金州ニ於テ現ニ一割ノ差アリトノ事ハ本官ノ聞込ミタル風説ニシテ未タ之ヲ實査スルノ暇ナシト雖モ稍事實ニ近キモノ、如シ此風説ニシテ眞ナラハ支那人ハ一萬人ニ對シ如上ノ暴利ヲ取リツ、アルモノナリ而シテ之カ救濟策トシテ一方ニ於テハ斯クノ如キ支那人ヲ取締リ他方ニ於テハ速カニ圓銀交換所ヲ該地ニ開設スルニアリトス尤モ金州ニハ遼東守備軍經理部長モアリテ既ニ研究セラレツ、アリト信セラレ

要スルニ圓銀交換ハ一箇所ニテ何程多額ノ交換ヲナスモ交換所所在地外ニ於テハ圓銀ト軍票トノ差アルヲ免レサルベシ故ニ一箇所ニ於テ多額ノ交換ヲナサシヨリ、其事口數箇所ニ於テ種々ノ制限ヲ加ヘテ少シク交換スルヲ勝レルニ如カサルモ、以テ信託、運搬、保管、軍經理部長ノ意見ニテ、公野戰金櫃部ハ交換セス單ニ兵站金櫃部ヲシテ、百人百圓ヲ限リ交換セシムトノ事ナレドモ當兵站金櫃部方當地ニアル間ハ到底斯ノ如キ小額ノ交換ヲ忽チ

第三軍經理部長官第九第十二師團及兵站經理部長宛

近來青泥窪其他以地方在ル内地商人ニ就キ販賣品ノ仕入ヲナス各部隊酒保員ノ取引上軍用手票ノ割引ヲナス結果土著商人ニモ漸ク感染シ爲メニ該手票ノ信用ニ影響スルノ懼アリ元來各部隊酒保員軍人軍屬以外ニ其物品ヲ販賣スヘカラサルハ勿論軍人軍屬ハ又通貨ノ給與ヲ受クルヲ本旨ト爲スヲ以テ酒保員個人ヨリ軍用手票ヲ收受スル場合ハ通常アルヘカラサル管ナルニ部隊ニ依リテハ酒保員ヲ以テ現地ニ於ケル物件調達ノ媒介タラシメ之ニ對シ軍用手票ヲ仕拂フ爲メ前陳ノ基因ヲ爲スモノト信セラル如此ハ野戰酒保規程ノ目的ニ反シ延テ軍用手票ノ流通ニ影響ヲ及ボスモノト謂ハサルヲ得ス貴官ハ篤ト各出納官吏等ニ訓示セラレ一層ノ注意ヲ拂ハシムルヲ要ス

軍用切符使用程度報告

明治三十七年十月二十九日付陸軍省第七〇九號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

明治三十七年十月二十九日付陸軍省第七〇九號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

明治三十七年 自十月九日 至同十五日 軍用切符使用交換狀況及圓銀使用程度報告

第三軍經理部

- 一 軍用切符ハ依然信用厚ク圓滿ニ流通シアリ
- 二 本週間ニ於ケル圓銀トノ交換額ハ五萬五千貳百四拾圓ニシテ其交換請求人員ハ五十八人ナリ而シテ前週ニ對比シ實ニ七萬九千八百四拾圓ノ減少ヲ見ルニ至ル蓋シ圓銀ノ交換ハ成ルルニ信用ヲ維持スル程度ニ止メ消極的方針ヲ採ルト現下ノ狀況清國人ノ航海ヲ禁止セラレシ結果芝罘地方ヨリ物資ヲ輸入ヲ絶チ爲メニ資金ヲ要セサルトニ起因セシナラン
- 三 圓銀ヲ以テ仕拂ニ使用セシコトナシ

明治三十八年一月十三日付滿鐵第一二號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付
百六十一

電報 一月十二日午後〇時五十一分著

「ダルニー」 大江兵站經理部長

經理長官宛

圓銀交換者本日二千餘人ニ達セリ聞ク所ニ據レハ營口ニテハ交換方極メテ不活潑ノ由又遼陽ニテハ交換ヲ爲シアラス
營口ト芝罘ニテハ銀紙ノ差二割内外ニシテ當地ハ其間ニ夾マリ頗ル難境ニ陥レリ就テハ遼陽海城蓋平復州等ニ小交換所ヲ設ケ當地ニ來ルモノヲ牽制スルツ策ヲ採ラレタシ
本日公五拾萬圓引換以見込ナリ交換三當ツヘ洋圓銀額を送ラレタシ委細郵便通關人ノ
一 本隊前線ニ在リテハ洋圓銀額ニ對シテ是ノ如クニ
二 本隊前線ニ在リテハ洋圓銀額ニ對シテ是ノ如クニ
三 本隊前線ニ在リテハ洋圓銀額ニ對シテ是ノ如クニ

第三軍經理部
明治三十八年一月十二日

明治三十八年二月二十二日付滿鐵第一二四號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付

第三軍經理第五〇一號

明治三十八年自一月七日軍用切符使用交換狀況及圓銀使用程度報告

明治三十八年一月十二日

第三軍經理部

- 一 軍用切符ノ信用ハ稍減セントスルノ傾ヲ呈セリ
- 二 本週中ニ於ケル圓銀トノ交換額ハ實ニ參拾六萬貳千圓ナリ之ヲ前週ニ比スレバ貳拾參萬九千圓ヲ増加セリ蓋シ輓近ニ至リ交換者著シク増倍スルノ趨勢アルヲ以テ本手票ヲ信用ヲ維持スル爲メ毎旬二回ノ交換ヲ三回ニ改メ之レカ要求ヲ満足セシメントシツバアリ而シテ其交換人員ハ七百三十人ノ多キニ及ヒ前週ニ比シ約三倍ニ増大セリ
- 三 圓銀ヲ以テ仕拂ニ使用セシムトナシ

百六十七

明治三十八年二月二日付滿鐵第四五號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

百六十八

明治三十八年 自一月八日 軍用切符使用交換狀況及圓銀使用程度報告

明治三十八年一月十九日

第三軍經理部

- 一 軍用切符ノ信用ハ依然減少セントスルノ傾ヲ呈セリ
- 二 本週中軍用手票ノ交換高ハ六拾壹萬參千圓ニシテ前週ニ比スレハ貳拾五萬千圓ヲ増加セリ這ハ去ル十三日ニ於ケル交換請求者ハ交換開始以來未曾有ノ大多數ニシテ其蟻集セシ人員ハ約三千人以上ニ達シ頗ル雜鬧ヲ極メシヲ以テ之カ制禦ノ困難ナルヲ慮リ交換高ヲ増加シ即チ千枚ノ交換切符ヲ調製シ之ヲ甲乙丙丁戊ノ五組ニ分チ各人ニ一枚ヲ交付シ交換所前ニ廣示シ十三日ハ甲乙丙丁戊ノ兩日ヲ以テ交付ヲ爲スコトヲセシガ十四日ノ如キ頗ル靜肅ナリシ其一人ノ交換高ハ五百圓及千圓ノ二種トス未タ確言スルヲ得スト雖十二日十四日ノ大交換ハ稍 良結果ヲ得タルモノ、如シ而シテ本週ハ三回ノ交換ニシテ其人員ハ千〇二十六名ナリ
- 三 圓銀ヲ以テ仕拂ニ使用セシコトナシ

明治三十八年二月十日付滿鐵第五九號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付

自明治三十七年十二月二十日 第三軍經理報告

一月八日 第三軍經理部

金錢事項

- 一 圓銀交換高ハ二月第一旬ニ於テ參拾六萬貳千圓ニシテ前旬ニ比シ拾七萬五千圓ヲ増加セリ
- 二 圓銀狀況ニ付兵站經理部長報告ノ要旨ヲ擧クレハ次ノ如シ
圓銀交換請求者ハ去月中旬ヨリ漸次大速度ヲ以テ増加ノ傾向ヲ認メシカ去月二十七日ニ於テ頓ニ増加シ、爾後益々増加ノ趨勢アリテ今日ヤ一日ノ交換請求者千人以上ニ達シ正シク第三ノ營口ト豹變シタリ而シテ「ダルク」ニ在リ云ハ去月中旬迄ハ圓銀ノ所有者ハ百分ノ一乃至二ノ手數料ヲ取リテ其需用者ニ圓銀ヲ渡シタルモノ、如ク一般ノ取引ニハ銀紙ノ差ヲ認メサリシモ今日ニ於テハ銀ノ需用供給者間ニハ約三割五歩ノ手數料ヲ以テ受授スルモノ、如シ然レトモ幸ニモ一般ノ取引ニハ其影響ヲ及ボス事大ナラサルカ如シ蓋シ「ダルク」ニハ交換所アルカ爲メ住民ハ尙兌換ノ左程困難ナラサルヲ信シ居ルヲ以テナリ尤モ過般來續々交換ヲ請求シ來ルモノハ「ダルク」

百六十九

「住民多數ヲ占ムト雖モ其交換請求ハ自己ノ爲メニスト云ハシヨリ警口營口蓋平、貔子窩、復州方面ノ住民ノ囑託ヲ受ケテ續々交換ヲ請求シ而シテ交換シ得タル銀其モノヨリ生スル利益即チ割五歩内外ノ手数料ヲ鞏斷スルニ汲ケタルモノ、如シ之カ爲メ一般ノ取引即チ物價ニ至大ノ關係ヲ及ホスヤ必セリ但シ營口及芝罘方面ニ在リテハ銀紙ノ差目下二割内外ナリト云フ之ヲ要スルニ當地ニ於テ前述ノ如ク異狀ヲ呈シタル近因ハ營口ト芝罘トノ間ニ挾マリ雙方ノ餘波ヲ受ケテ早晚増加セシトシツ、アリシ交換者カ何カ露探等ノ浮説ニ依リテ俄然増加シタルモノト認メラル之レ其第二因ナルヘシ

聞ク處ニ依レハ銀塊ノ價格ハ目下我金貨ノ殆ント壹圓ニ騰貴セリト然ルニ圓銀ノ法定價格ハ九拾錢ナリ故ニ此事實ニシテ眞ナラハ利益ニ披目ナキ支那人ハ先以テ信用薄キ軍票ヲ圓銀ニ替ヘ而シテ相場ノ高低常ナキ圓銀ハ目下ノ如ク其騰貴セル場合ニ於テ比較的變動少ナキ金貨ニ換フルモノアルハ勢ヒ免カレ難キ所ナリ是其第二因ナラシ

以上ハ重ナル原因ト認ムヘキモノニシテ其他直接間接原因ト認ムヘキモノハ極メテ

複雑ナリ

救済方法トシテハ可成多クノ資銀ヲ準備シ此際大交換ヲ斷行スルハ最上ノ策ナレドモ政府ノ財政上幾何ノ程度之ヲ許スヤヲ知ラザレハ決行スル能ハサルノ遺憾アリ故ニ交換ハ財力ノ許ス限リニ止ムルモノトシテ其以外ノ諸點ニ就テ救済法ヲ左ニ述ベン

(一) 警口、タルニ一、竝ニ各兵站金櫃部下歩調ヲ揃ヘテ交換ヲ行フコト、聞ク處ニ據レハ目下營口ニ於ケル交換方ハ極メテ不活潑ナリト又々遼陽ニ於ケル各軍ノ兵站金櫃部ハ一モ交換ヲ爲サスト果シテ然ラバ營口港凍結ノ折柄ナレハ全軍ヲ使用セル軍票ノ大部分ハ當タルニ一ニ於テ交換セサルヲ得サル事トナリタルニ一ニ於テ如何ニ骨折ルモ其效力少ナカルヘシ故ニ各部歩調ヲ揃ヘテ交換スルコト極メテ必要ナリ然ルニ目下ノ狀況ヨリ云々ハ交換機關ハ軍部ニ於テハ各兵站ニ別レ其他營口ノ如キハ銀行之ヲ擔任シ滿洲ニ於テ直接之カ統ニ機關ナキヲ以テ緩急ニ應ジ歩調ヲ揃フルコト頗ル困難ナリ故ニ圓銀交換ハ軍部ニ於テ特別ノ機關ヲ編成スルカ若クハ大藏省ニ於テ全ク擔任スルカ二者一ニ決スルノ必要アルヲ認ム

(二) 少數ノ大交換所ヨリモ寧ロ多數ノ小交換所ヲ設ケラレ度キコトハ嚮ニ意見上申シ置ケリ今日ニ於テハ益々其必要ヲ認ム故ニ此際遼陽ハ勿論少クモ復州蓋平海城等ニ小交換所ヲ設ケテハ營口方面ニハハダルニ一ノ方面ニ來ルモノヲ牽制シ且ツ交換所ニ至ルノ距離ノ遠キニ從ヒ銀紙ノ差大ナラントスル弊害ヲ防止シタシ

(三) 天津芝罘上海等へ交換所ヲ開クガ小クモ爲換作用ノ便宜ヲ開キ可成内地ヨリ輸出ニ依リ相殺ク方法ヲ講スルコト嚮キニ意見具申セシ所ナリ此件ニ關シテハ目下「ダニ」ニアルニ三井店員モ天津地方へ調査ノ爲メ出張中ナリ其結果ハ不日參考トシテ報告スヘシ

(四) 軍票ヲ價格以上ニ買收スルコト是レ露國カ成效シタリト稱ズルノ手段ナリ此事タル高德ニシテ機敏ナル人ヲ得サレハ實行頗ル困難ナリト雖トモ支那人ニ對シテハ多分良好ノ手段ナラシカ間ク露國ハ今尙買收策ヲ實行シ一方ニ於テハ我財政ヲ困シメ他ノ一方ニ於テハ「ル」ナル紙幣ノ信用ヲ強固ニシツトアリト

(五) 銀塊ノ價格ヲ時價ニ相當セシムルコト若シ取扱上ノ煩アラハ少クトモ時價ニ近似セシムルコト是レ既述第二原因ヲ救済センガ爲メナリ

之ヲ要スルニ應急策トシテ少クモ五六百萬圓ヲ準備シ及フ限リ大交換ヲ行ヒツト其經過ノ狀況ニ應シテ善後策ヲ講スルコト必要アリト認メタルヲ以テ本旬中野戰經理長官へ其意見ヲ直接具申シ置タリ然レトモ同長官ヨリ其決行ノ可否ニ就テハ何等ノ返電ヲ得スト雖モ今日ノ場合一日躊躇スレバ其レ丈々軍票ノ信用ニ影響ヲ來スモノト認メタルヲ以テ資銀ノ許ス限リ此處置ヲ決行セントス

明治三十八年二月十五日

第三軍經理部長 吉田 丈治

野戰經理長官外松孫太郎殿

軍用手票ノ價格維持及流通擴張方ノ義ニ付具申

軍用手票ノ價格及其流通如何ハ直チニ我戰時財政ヲ左右シ其影響大ナルヤ明カナリ故ニ從來之レニ對シテハ特ニ意ヲ注キ其狀況ニ就テハ既ニ毎旬之レヲ詳報シ併セテ之レカ救濟ノ意見ヲモ具申シ置キタリト云ヘトモ過般來對岸及内地ニ取組ミ得ル爲替ノ道ヲ開カレタルノ外未ダ救濟ノ方法モ立テラレサルカ如シ

然ルニ當地方ニ於ケル爾後ノ狀況ハ日ニ非ニ傾キ目下ニ於ケル土人間ノ流通價格ハ額面ニ對シ十分ノ六ヲ維持シ得ルニ過キサルニ至リ信用ノ下落ト共ニ物資ノ調達並ニ不便ナルノミナラス爲メニ大拾錢ノ物資ハ壹圓ノ高價ヲ以テ之レヲ購ハサルヲ得サル事ト云リ之レカ爲メニ生スヘキ損失ハ實ニ莫大ナリト云ヘトモ、
今一軍二箇月ノ手票拂出高ヲ百萬圓ト假定スルモ滿洲ニ於テ費消スヘキ總額ハ五百萬圓ニ

上リ其損失スヘキ高ハ實ニ貳百萬圓ノ多キニ達スヘキ割合ナルハ勿論其損失高丈ケハ必要以外ニ多クノ手票ヲ拂出スヘキニ因リ更ニ夫レ丈ケ交換要求高ヲ増加シ爲メニ交換ラシテ益々困難ニ陥ラシムルヲ以テ其信用ハ多々益々下落シ從テ銀紙ノ差益増大スヘキヤ明カナリ故ニ今ニシテ之ヲ救濟セザレハ遂ニハ土人ヲシテ不換ノ手票タルカラ疑ハシムルニ至ルヤモ計ラレス況ニヤ露國ノ手ヲ廻ハシ我財政ヲ妨ケントスルヤソ疑アル今日ニ於テオヤ豈輕々ニ看過スルヲ得ヘケンヤ

茲ニ於テ當金櫃部長ヲ遼陽金庫派出所ニ遣ハシ具サニ其狀況ヲ調査セシメシモ別紙復命書ノ如ク基金僅少ノ結果信用ヲ維持スヘキ程度ノ交換行ハレサルカ如ク要スルニ今日ソ場合姑息ノ手段ヲ避ケニ大英斷ヲ以テ暫時ノ間無制限ノ交換ヲ假行シ漸次ニ信用ノ上騰ヲ促シ尙ホ進シテ買收ノ策ヲ行フノ外手段ナカレシテ其交換ハ從前ノ交換所ニ於テ行ハシムルモ可ナリト云ヘトモ由來土人間ニ於ケル狀況ヲ察スルニ自ラ交換所ニ出頭シテ交換スルヲ厭フノ風アリ爲メニ割引ヲ爲シテ手票ノ仲買人ニ之ヲ賣却シ仲買人タル奸商ハ其間ニ生スル利益ノ多カラシ事ヲ欲シ交換ノ困難ナルヲ口實トシ益々其割引ヲ強フセシトスルモノハ如シ而シテ此等土人等ノ直接交換ヲ厭フノ理由ハ固ハ交換日ニ於ケル交換要求者群集

ノ爲メ其交換順序來ルヲ待テ、遂ニ日没ニ至リ次回ノ交換日ニ順延セシメラル等
 傾モアルヘシト云ヘトモ又一方ヨリ其之レヲ聞ケハ其交換不活潑ナルヲミテラス土人ニ對シ
 往々權柄ヲ行ヒ其行爲不親切ナルニモ起因スルガ如シ要スルニ銀行ヲ如キハ手票價格以上
 下ニ對スル利害ノ關係少ク又交換額少額ノ多入數ニ對シテ之レヲ行フヨリ多額以上
 入數ニ對シテ行フ方手數ナキ等其責任甚タ少キヲ以テ爾後該交換ハ軍經理機關監視以下ニ
 於テ敏捷ト懇切トヲ旨トシ之ヲ實行スル事トセハ一日ニシテ其相場ハ暴騰シ各軍ハ
 一箇月分ノ費消金高以内ノ基金ヲ以テ能ク其信用ヲ回復シ得ヘケン而シテ其信用漸ク回復
 セントスルニ臨ミ他ノ方面ニ於テハ額面以上ニ買收スルヲ策ヲ講セハ恐ラク好果ヲ得ルニ
 至ラシカ然レトモ其買收手段タルヤ我政府機關ヲシテ公然之ヲ行ハシムルニ至テハ恰モ割
 増シテ交換ヲ行フト同理ナルノミナラス或ハ一時許多ノ基金ヲ要スルニ至ラシ故ニ機敏ニ
 シテ高德ナル人ヲ撰ヒ商人體ニ裝ハシメ若クハ信用アル内地商人及ヒ軍政署ニ於テ信認セ
 ル土人等ヲ各所ニ散遣シ額面自リ二分(百分ノ二)増シ位ノ高價ヲ以テ若干宛買收セシメ之
 下同時ニ各所ニ揭示スルニ我軍ニ於テ手票ヲ使用スルハ戰鬪動作上圓銀ハ運搬及ヒ貯藏ニ
 不便ナルカ爲メ之ニ代ヘ使用スルモノナレハ其交換ヲ欲スル者ハ後方交換機關ニ於テ任意

百七十六

交換スルシトノ旨ヲ以テ我軍ハ土民等ノ不安ヲ去リ交換要求ノ方面自レ之ヲ牽制シ得ルト同
 時ニ一般流通上ノ信用ヲ騰貴セシムルニ足ルベキハ猶露國ノ買收手段カ成功シアルニ徴ス
 ルモ明カナリトス而シテ此買收手段タルヤ一見割増ニ對スル損失ヲ賭スルカ如キモ之ガ爲
 メニスル損失ハ假令三分増シトスルモ百萬圓ノ買收ニ對シ僅テ貳百萬圓ニ過キス若シ之
 ヲ以テ信用ヲ回復シ得ヘシトセバ前陳下落ニ對スル百分ノ四十ノ損失ヲ將來拂出スルキ手
 票總高ヨリ回収シ得ヘキ事トナルヲ以テ其差タルヤ實ニ宵壤ノ差アルニシテ此手段
 シテ果シテ成功シ信用回復スルヲ得ル彼等土人亦其貯藏及携帶上ノ便否ニ鑑ミ自カラ手
 票ノ輕便ヲ欲シ又一方價格ノ關係上圓銀ヨリモ高價ナル手票ヲ所持セントシ漸次交換ノ
 要求高ラ減シ現下ノ悲境ヲ反轉シ延ヒテ露國ルニブル紙幣ノ信用ヲ妨害シ得ルニ至ラン
 カ 露國ニ對シテ露軍手票ノ交換ニハ極力テ露國ルニブル紙幣ノ信用ヲ妨害シ得ルニ至ラン
 以上六目下ノ狀況ニ鑑ミ卑見ヲ具シテ救濟資料ノ一端ニ供セントス
 右意見及具申候也

露軍手票交換ノ手續
 露軍手票交換ノ手續
 露軍手票交換ノ手續

百七十七

復命書

陸軍一等主計 三宅周作

百七十八

明治三十八年三月十二日遼陽金庫派出所

出納役三面談セシ要件ノ問答左リ如シ

問 貴所ニ於テ軍用手票ノ交換ニハ制限ヲ設ケラレアルトノコトナルカ其限度ヲ承知シタ

ルシ且其制限ハ大藏大臣ノ内達若クハ内訓等ニ據ルカ將貴所ニ於テ適宜ニ定メラレタ

ルモソナルヤ

答 制限ヲ設ケテ交換セリ但大藏大臣其他ノ指揮若クハ訓示ニ依ルニアラス即チ本所ニテ

適宜之ヲ定メタルモノナリ而シテ其事由ハ本所開設ノ爲メ本邦出發ニ臨ミ日本銀行

庫局長ヨリ基金トシテ五萬圓(内壹萬圓補助貨)ヲ交付セラレ且ツ曰ク遼陽正金銀行

ノ名ヲ以テ交換所ヲ開設スルモ現今ノ状態ニ鑑ミルニ或ハ交換ハ實施スルニ至ラサル

ハ故ニ當該金額ヲ基本トセハ不足ナシト思惟ス若シ不足ヲ生ゼシトキハ營口派出所

ヨリ取ルコトヲ命テ可ナラント即チ命ヲ領シテ出發セリ而シテ客年十一月十五日交換

ヲ開始セシ三四日間ハ請求者ナク其後ハ日々四五人位ツ少額ノ交換ヲ申出ツル

至レリ然ルニ營口氷結(十二月中旬)スルニ及ンテ山東省其他ヨリ出稼ヲナス苦力輩

里ニ歸ルカ爲メ交換ヲ請求スル者ヲ生シ且ツ之カ導火線トナリタルモノカ俄然トシテ

參千圓乃至五千圓(四萬圓)ノ交換ヲ請求シ來リタルモノモアリノ交換ヲ請求スルモノ

日々ニ増加シ基金ニ缺乏ヲ告ケシトセシニ依リ營口派出所ニ電報ヲ漸ク(營口ニ打電

シトキ同派出所ニ國庫ノ命令ナレト云フ理由ニ依リ請求ニ應)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

モ不故ニ又國庫ニ打電セシ等幾多手數ヲ上初メテ回金セリ)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

信用ヲ繋クヲ得タリ依テ想フニ此交換額ニ制限ヲ設ケサレハ底止スル所ナシ結局此小

規模ニテ堪ヘキニアラス故ニ一人ニ日百圓ヲ限度トシテ交換セハ以テ其信用ハ繋

クニ足ルト思惟セシテ以テ其ハ其當該ノ國庫ニ電報ヲ漸ク(國庫ニ打電

シトキ同派出所ニ國庫ノ命令ナレト云フ理由ニ依リ請求ニ應)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

モ不故ニ又國庫ニ打電セシ等幾多手數ヲ上初メテ回金セリ)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

信用ヲ繋クヲ得タリ依テ想フニ此交換額ニ制限ヲ設ケサレハ底止スル所ナシ結局此小

規模ニテ堪ヘキニアラス故ニ一人ニ日百圓ヲ限度トシテ交換セハ以テ其信用ハ繋

クニ足ルト思惟セシテ以テ其ハ其當該ノ國庫ニ電報ヲ漸ク(國庫ニ打電

シトキ同派出所ニ國庫ノ命令ナレト云フ理由ニ依リ請求ニ應)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

モ不故ニ又國庫ニ打電セシ等幾多手數ヲ上初メテ回金セリ)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

信用ヲ繋クヲ得タリ依テ想フニ此交換額ニ制限ヲ設ケサレハ底止スル所ナシ結局此小

規模ニテ堪ヘキニアラス故ニ一人ニ日百圓ヲ限度トシテ交換セハ以テ其信用ハ繋

クニ足ルト思惟セシテ以テ其ハ其當該ノ國庫ニ電報ヲ漸ク(國庫ニ打電

シトキ同派出所ニ國庫ノ命令ナレト云フ理由ニ依リ請求ニ應)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

モ不故ニ又國庫ニ打電セシ等幾多手數ヲ上初メテ回金セリ)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

信用ヲ繋クヲ得タリ依テ想フニ此交換額ニ制限ヲ設ケサレハ底止スル所ナシ結局此小

規模ニテ堪ヘキニアラス故ニ一人ニ日百圓ヲ限度トシテ交換セハ以テ其信用ハ繋

クニ足ルト思惟セシテ以テ其ハ其當該ノ國庫ニ電報ヲ漸ク(國庫ニ打電

シトキ同派出所ニ國庫ノ命令ナレト云フ理由ニ依リ請求ニ應)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

モ不故ニ又國庫ニ打電セシ等幾多手數ヲ上初メテ回金セリ)八萬圓ノ回金ヲ得テ辛ク

明治三十八年四月二十六日於阿吉

第三軍經理部長 吉田 丈治

經理報告(自四月十一日
至四月二十日)

金錢

一 新宿營後移轉後ニ於ケル軍用手票ノ流通ニ於テハ信用一層厚クシテ圓滿ニ行ハレツツアリ

第九師團經理部長ノ報告ニ依ルニ土人中一二ノ割増請求ヲ爲スモノアリ之ヲ調査セシニ日本商人中支那人ノ所持スル軍票ニ對シ約一割ノ割引ヲ以テ通貨ト交換シタルモノアルニ原因セルモノ、如シト依テ如此輩ハ排除スル必要アリ故ニ各部隊ニ於テ嚴重ニ調査ヲ遂ゲタルモ、トテ注意シ置キタリ

二 其鴨綠江軍兵站經理部長ヨリ清人ノ手ニ依テ變造サレタルモノト疑ハシテ軍用手票ヲ發見セル旨通報アリ依テ其關係ノ向內牒ヲ發シ置キタリ詳細ハ同官ヨリ報告濟ナルベキヲ以テ爰ニ略ス

自明治三十八年四月二十二日第三軍經理報告(第三三號) 五月七日
至同年四月三十日 於法庫門

第三軍經理部

金錢事項

一 軍用手票ノ流通ハ依然圓滿ニ行ハレツ、アリト雖近來酒保商人ノ振込ニ係ル爲替金種中ニ於テ軍用手票稍、多額ニ上ルモノアリ或ハ手票買收ノ手段ニ出ツルモノニアラサルナキ乎ヲ疑フニ至リタルヲ以テ間接ニ之レカ調査ノ結果ニ依ルニ未タ奸手段ニ出テタルモノアルヲ見出サスト雖尙ホ此調査ハ嚴重ニ行ハントス

二 軍用手票ノ價值ハ一月下旬來ニ時低下シタルモ現今ニ至リテハ漸次挽回セラレツ、アル狀況ナリ是レ即チ戰勝ノ結果ト營口大連ヨリ爲替取組先ヲ擴張セラレタルトニ基因スルモノ、如シ今各金庫所在地ニ於ケル墨銀ト軍用手票トノ比差ヲ得タレハ左ニ擧ケ參考ニ供ス

墨銀百圓ニ對シ	
軍票百貳圓	大連
同百圓	同 百參圓
同百圓	同 百拾壹圓
	牛莊
	安東縣

(奉天以遼陽ト大差ヲ遺テト思料ス) 同 百八十五

軍用金票ノ流通益、圓滑ナリ但シ第九師團ノ先進部隊(平佐支隊)ニ於テ手票行使ノ初メニ當テハ土人不安ノ面色アリシモコハ始メテ之ヲ目撃シタルニ依ル且ツ露人ノ無價ニ物品ヲ徵用スルカ如キハ曾テ聞ク處ナリシカ我軍カ代金ヲ仕拂フヲ以テ土人ハ異様ヲ感ラ懐ケルカ如キ様子ナリシト云フ然レトモ若干日ニシテ之ニ慣レタル後ハ彼等モ亦安心シテ受授甚タ圓滑トナレリト云フ聞ク、進取ハ其軍金滿濟ノニ由リ

第三軍經理部
明治三十八年五月第二句經理報告

明治三十八年六月十五日付滿鐵第二九二號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ拜付

金錢事項
第三軍經理部

一 軍用手票ノ流通益、圓滑ナリ但シ第九師團ノ先進部隊(平佐支隊)ニ於テ手票行使ノ初メニ當テハ土人不安ノ面色アリシモコハ始メテ之ヲ目撃シタルニ依ル且ツ露人ノ無價ニ物品ヲ徵用スルカ如キハ曾テ聞ク處ナリシカ我軍カ代金ヲ仕拂フヲ以テ土人ハ異様ヲ感ラ懐ケルカ如キ様子ナリシト云フ然レトモ若干日ニシテ之ニ慣レタル後ハ彼等モ亦安心シテ受授甚タ圓滑トナレリト云フ聞ク、進取ハ其軍金滿濟ノニ由リ

本年一月十四日盛京省隋家屯ニ於テ第三十七聯隊第三大隊ノ金櫃ヲ窃取セル支那人二名先般就縛ノ處今回裁判確定ヲ以テ贓金賠償金共計六千七百參拾五圓拾錢ヲ被害者ニ還附スル旨旅順軍事法庭ヨリ通知セリ

明治三十七年八月二十一日付滿鐵第五六九號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

百八十八

明治三十七年七月二十二日於岫巖

第四軍經理部

貨幣及軍用切符流通シ狀況ニ是迄師團經理部長ヨリ報告セシ通りニテ今日モ尙良好ノ狀況
ニアリニハシテ流通額ノ減少ハ無シ然レモ金銀貨幣共六千七百餘圓計額ニ達
各部隊金錢ノ保管出納シ狀況言付テハ未タ之ヲ精察スルハ時日ヲキモ時々検査ヲ實行
納整理ヲ確實ヲ圖ルコト等ニ付テハ師團及兵站經理部長ニ訓示スル考ヘナリ
圓銀ノ交換ハ當分兵站金櫃部ニシテ行ハシムル管從テ圓銀ノ追送ハ兵站金櫃部ノミニ止
メラレタシ軍又ハ師團ニ於テハ必要生セハ兵站金櫃部ヨリ移算セシムル考ヘナリ
一 軍用切符ノ流通額ノ減少ハ無シ然レモ金銀貨幣共六千七百餘圓計額ニ達
一 軍用切符ノ流通額ノ減少ハ無シ然レモ金銀貨幣共六千七百餘圓計額ニ達
一 軍用切符ノ流通額ノ減少ハ無シ然レモ金銀貨幣共六千七百餘圓計額ニ達

第三軍經理部

明治三十七年八月二十一日付滿鐵第五六九號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

明治三十七年十月一日付滿鐵第六三二號ノ一ヲ以テ外松陸軍省經理局長ヨリ廻付

明治三十七年八月十二日於栃木城

第四軍經理部

金錢事項

- 一 軍司令部及直轄部隊經費九月分所要見込ハ拾五萬圓ニシテ總テ軍用手票ヲ以テ受領
シ其内譯ハ拾圓券參萬圓五圓券四萬圓壹圓券六萬圓五拾錢券貳萬圓ノ事ニ致シ度キ
旨發電センガ本月十一日四拾參萬圓受領シ付金櫃現在ノ金額ハ計月マテ以テ經費ヲ支
フルニ足ルヲ以テ通貨ハ當分追送ヲ仰テ要ナキモ軍用切符ノ現在ハ約拾萬圓ニシテ
以テ十月分所要トシテ本項以テ軍用切符送付アリタリハ支取人ノ際ニ對シテ金銀
本旬中當地附近ニ於テ各部隊ノ軍用切符使用ニ對シ土民中間々之ヲ嫌ヒ從テ圓銀ニ
比シ其價格ヲ降下スル以テ報ヲ耳ニテ想フニ土民中無智ニテ軍用切符ヲ眞價ヲ知
ラサルニ在リシモ拾置キテ折角好況ニアル聲價ヲ傷クルアラントトテ慮リ各經理部
長及軍直屬部隊長等左以通牒ヲ發シテ
從來ノ狀況ニ徴スルニ軍用切符ノ流通ハ圓滑ニテ地方人民ハ圓銀ヨリモ寧ロ切
符ノ仕拂ヲ好ム以有様ナリ茲方近來聞ク所ニ依ルニ此地方ニ於テ間々切符ノ仕拂

百八十九

ヲ受テ形ヲ厭ヒ從テ價值ヲ低下スル凶事アリ折角好況ニアル切符ノ流通ヲ青ク
 形本軍資經理及國家經濟上遺憾ノ事ニ就キ切符使用者ハ其價格以昂上ニ努メ其流
 通ヲ勵行シ萬一強テ圓銀仕拂ヲ望ムモノアレハ軍金櫃部ニ於テ交換ヲ行フニ依リ
 安シク切符ヲ受領セシムルコトニ注意有之度也
 然ルニ爾後圓銀下ノ交換ヲ軍金櫃部ニ申出ツル至ラザク切符流通以狀況依然トシテ
 好況ニテ切符流通ニハ各機關ノ軍用切符流通ニ對シテ注意有之度也
 三 軍用切符不足ヲ爲メ通貨使用ヲ已メテキヨトアリ抑モ支那人ノ利ニ敏ナル兌換金券
 ト圓銀下ノ金差ヲ勘定シ金券ヲ望ム以狀況アルヲ以テ切符ノ信用維持上之ヲ金券ト
 同ニ價格ニ使用スルノ必要アル事共ニ經濟上可成金券ヲ使用ヲ節以ルカ爲メ軍
 用切符ヲ追送ヲ急務速ニモラシメテ下ヲ望ムニ當リ各機關ノ軍用切符流通ニ對シテ
 軍用切符流通ヲ急務速ニモラシメテ下ヲ望ムニ當リ各機關ノ軍用切符流通ニ對シテ

明治三十七年九月二十二日付通牒第六六七號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

第四軍經理部

第四軍第五回(自九月十一日)經理報告
 明治三十七年九月二十四日於スイリチヤン

一 本月十九日追送軍用切符銀拾萬圓受領スルノ事ニ對シテ各機關ノ軍用切符流通ニ對シテ
 目下各部隊共小銅貨缺乏ス給料支給上不便アリ依テ若干銅貨ヲ送付ヲ望ム但シ此銅貨亦
 軍金櫃部用ノ分ヲ取纏メ兵站金櫃ニ交付シ置カルノモ可ナリ

二 第四軍經理部
 第四軍經理部
 第四軍經理部

明治三十七年九月二十二日付通牒第六六七號ノ一ヲ以テ外務陸軍省經理局長ヨリ廻付ノ内

第四軍經理部

